

PV-Net News



PV-Net News第8号 2005年9月30日発行 ■発行人：日江井榮二郎 ■編集人：都筑 建 ■発行所：太陽光発電所ネットワーク 〒101-0061千代田区三崎町2-15-2-6F
 ■記事・広告等のお問い合わせ E-Mail: info@greenenergy.jp TEL: 03-3221-3370 ※記事および写真等の無断転載は固くお断わりいたします。
 ■インターネットでも情報をご覧ください。www.greenenergy.jp ■印刷：豊印刷(株) ■レイアウト：八木澤晴子 ■編集協力：(株)NOBOX
 ※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。
 太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network, Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

CONTENTS もくじ

- 1 ニューストピックス
2005年度総会が開催されました
宮崎地域交流会が立ち上がり
PV-Netのグリーン電力証書
「PV-Green」が売れています!
- 2 特集1 2005年度総会 開催報告
- 4 PV-Net最前線
ついに新地域交流会誕生!
全国に広がる会員拡大
- 5 新生 相談室の運営について
- 6 宮崎から全国に発信する
太陽光発電普及政策提言
- 7 連載 トラブル改善の取り組み⑦
- 8 特集2 動き始めた「PV-Green」!
「PV-Green」証書が売れています!
設備認定の申請も続々!
グリーン電力証書システムの
意義をもう一度振り返ると……
グリーン電力証書をめぐる動向
- 12 各地の発電量データと太陽光発電所
マップ
- 14 PV-Netレポート
No.1 愛知万博出展の様子と
その後の報告
- 15 No.2 パネル工場と太陽光発
電所見学の旅 (in山梨・長野)
- 16 会員の広場
- 18 活動報告 地域の動き
- 22 理事会&部会報告
- 24 事務局からのお知らせ
事務局日誌

COLUMN コラム

- 5 PV-Net川柳 第六回
- 9 「写真展見に行ってきました!」
- 11 おもしろ海外事例
- 14 バイオマス屋から見た、PV-Net展示観察記
- 17 「ストップおんだん館」にて
話題提供しました

NEWS TOPICS

2005年度総会が開催されました

去る6月25日(土)午後、千代田区神田駿河台の明治大学リパティタ
 ワーで、PV-Net2005年度総会が、597名(内、書面表決者480名)の出席者
 を得て開催されました。総会では議案書に則り、前年度活動報告のあと、
 2005年度活動方針案、予算案、役員人事案、規約改正案が審議され、NPO
 法人設立も承認されました。第2部の講演会では、グリーン電力認証機構
 委員長の山地憲治氏より、グリーン電力の重要性が語られました。会場に
 は、愛・地球博に出展したソーラータウンが展示され、その彩りの豊かさ
 で参加者の関心を引いていました。

今総会では総会成立条件となる「正会員2分の1以上出席」の数にかろ
 うじて達しましたが、来年は余裕をもって開催できるよう、書面議決書提
 出のご協力をお願いします。

宮崎地域交流会が立ち上がりました

太陽が燦々と降り注ぐ九州・宮崎からうれしいお知らせです。8月25日
 に立ち上げのフォーラムを開催した宮崎地域交流会が、8月27日の理事会
 で正式に承認され、PV-Netとして初めての関東圏外の地域交流会として活
 動を開始しました。

9月6日に台風14号の厳しい影響を受けた宮崎のみなさん、太陽光のパ
 ワーをもらって、どうぞこの難局を乗り切ってください。

PV-Netのグリーン電力証書 「PV-Green」が売れています!

総会でお披露目をしたグリーン電力証書「PV-Green」が、環境イベント
 などで活躍しています。太陽光発電所のグリーン電力証書「PV-Green」を
 買うことは、有機の野菜を選ぶように自然エ
 ネルギーを選び、発電コストの高い太陽光発
 電をしている個人のエネルギー生産者さんを
 応援することになり、太陽光発電の普及にも
 つながります。発電設備を持つことができな
 くとも、ひとり一人の行動・選択によって、
 自然エネルギーを増やし、地球温暖化防止に
 つながることができるツールなのです。最新
 状況は本誌P8-11の特集2をご覧ください。



坂本龍一ジャパンツアーのリハーサルスタ
 ジオに購入された証書

特集1

2005年度総会

開催報告

去る6月25日(土)に、太陽光発電所ネットワーク2005年度総会が明治大学リビティタワーにて開催され、117名の方が出席されました。

総会は、太陽光発電所ネットワークの年間2回の全体イベントのうち、会員だけが集まる唯一の機会です。また今回はNPO法人の設立について総会で決された記念すべき総会となりました。

ここでは、総会で決まった主な内容や、当日の様子をご紹介します。



総会で2005年度の理事、幹事が承認されました。

第1部 ★ 2004年度活動報告と新年度の活動目標

来賓挨拶

井上岳氏(東京電力株式会社販売営業本部省エネルギー推進グループ部長)と、西野正則氏(再生可能エネルギー2006国際会議併設新エネルギー世界展示会副委員長)からご挨拶をいただきました。

1号議案 2004年度活動報告

年度初めに以下3つの重点項目を定めました。1)太陽光発電(以下PV)の実態把握、普及促進、会員メリット実現、2)自立化と基盤固め、3)会員の拡大と多様化。

特筆すべき実績として、トラブル相談室の開設のほか、エコプロダクツや愛知万博への出展を通じて世界へ情報発信を行ってきました。また、PVのグリーン電力証書PV-Greenの事業化が想定より早く実現できました。宮崎を始め関西では、PV-Greenをきっかけに一気に会員が増えています。

◎満場一致で承認されました。

2号議案 2005年度活動方針

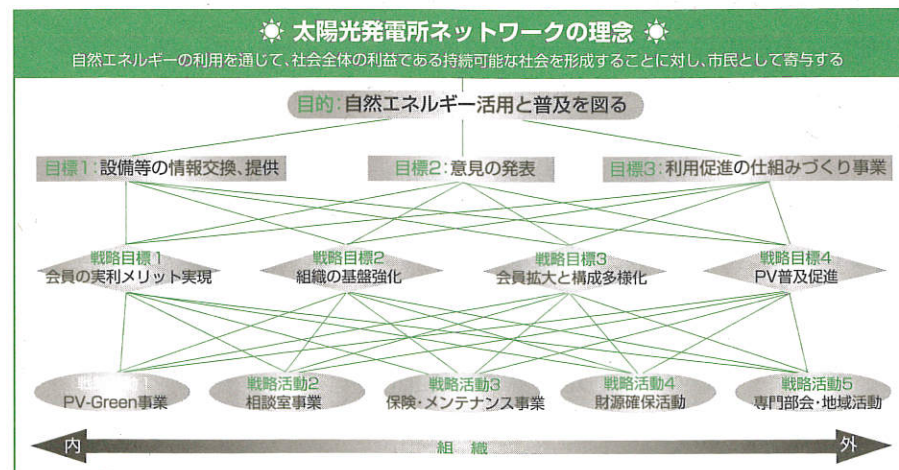
1) 中長期目標

PV-Netの理念の実現を、3~5年という中長期を考えて模索してきた結果、図1のような戦略目標になりました。

2) 2005年度基本方針、重点課題

キーワードは「PV-Net組織の Slim化と発展」です。4つの重点課題のうち1つ目の「会員拡大と多様化と調和」は、PV-Greenや相談室などの活動を柱に、知名度や発言力の強化を目指す内容です。2つ目の「PV-Green事業」は、昨年引き続き進めます。3つ目の「相談室」は、昨年10月に開設し、今後官庁や自治体等と連携して充実を図ります。4つ目の「組織基盤強化」では、NPO法人化にふさわしい自立化と効率的運用を進展させます。また、昨年度は7つの委員会で手広く活動を試みましたが、今年は小さく集約し、組織の Slim化と強化を図ります。

図1 PV-Netの理念と活動目的、中長期の戦略的目標



【質問1】理念や目的に「自然エネルギー」とあるが、私個人としてはPVに特化してほしい。

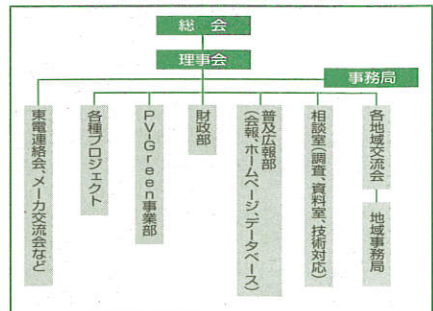
【応答】定款の目的は広く「自然エネルギー」としましたが、具体策以下は実質PVを扱っています。

【質問2】相談室の実績は?

【応答】一番多いのが推定発電量との乖離度の大きい方へのアドバイスです。今後は実績をもう少し集めて公表していきます。

◎賛成多数で承認されました。

図2 PV-Net2005年度度の新体制



3号議案

1) 2004年度決算報告

期の半ばに予算を補正しました。愛知万博の決算は未完了なので次年度に繰り越します。支出では管理費はほぼ予算通り、事業費は当初7項目に補正予算でPV-Greenを加えて8項目にしました。

【監査報告(岩井監事)】監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

【野村・顧問会計士】寄付が収入の大半を占めており、今後の収支構造をどのようにつくっていくかが重要です。公益性のある団体は、一般の会社以上の財産管理が求められますので対策を行っています。

◎満場一致で承認されました。

2) 2005年度予算(案)

活動方針に沿って予算を立てました。寄付は東電から3000万を予定、昨年度比大幅減です。支出の内、PV-Green事業は特別会計の形で載せました。全体では緊縮財政となり、助成や事業収入でどうカバーできるかがポイントです。

【質問1】収入が昨年度より1000万円減ですが対策は?

【応答】管理費では収入減の大半を人件費で吸収する予定です。

【質問2】赤字を出さずにPV-Greenを運営できないか?

【応答】3年目を目標とする黒字化の早期実現に向けて努力します。

◎賛成多数で承認されました。

4号議案 2005年度人事(案)

理事19名を理事会で選任し、また監事2名を推薦します。

◎賛成多数で承認されました。

【議長】代表、副代表理事は理事の互選で決めます。

【副代表理事】理事の互選の結果、代表理事は日江井榮二郎、副代表理事として引き続き藤井石根、野村安子になりました。また専務理事は引き続き都筑建となりました。

5号議案 規約改正(案)

NPO法人化に則した改正です。内閣府に法人化を申請しますが、内閣府から指摘された点の修正に限り、理事会に一任いただきたい。

◎満場一致で承認されました。

表1 規約改正案正誤表

| | 誤 | 正 |
|------------------|-------------|--------------------------------|
| 2条2項2号(市町村合併により) | 塩谷郡氏家町 | → さくら市 |
| 同8号() | 北巨摩郡高根町 | → 北社市 |
| 同6号() | 鹿島郡神栖町 | → 茨城県神栖市 |
| 6条1項 | 正会員を持って | → 正会員をもって |
| 22条2項3号、31条1項3号 | 14条4項 | → 14条5項 |
| 60条1項、2項 | 地区交流会 | → 地域交流会 |
| 附則1 | 定時総会 | → 通常総会 |
| 附則2 | 受けたときより施行する | → 受け、特定非営利活動法人化の認可を受けたときより施行する |

第2部 ★ 講演「自然エネルギーの普及におけるグリーン電力の役割」

～講師 山地 憲治氏～

長い間電力中央研究所・経済研究所で、環境面からのエネルギー技術の研究・評価を行い、10年近く前からグリーン電力にかかわられた山地東京大学教授に、グリーン電力認証機構委員会委員長の立場から、自然エネルギーの特長や課題、グリーン電力の仕組みと役割などをお話いただきました。

また、グリーン電力基金運営委員長、さらには経産省のグリーンPPS*検討委員会の座長を務められ

るなど、初期段階からグリーン電力制度に携わっておられる立場から、大局的な視点でその普及のあり方について、そして歴史的また日本の新エネルギー(自然エネルギー)の実情から見た現状と今後を話されました。その中で次の話が強く印象に残りました。

「全国のPV設置量100万kWは電力会社の発電所2億数千kWに比べると小さく、定格の12%程の年間発電量なのでさらに小規模と言えます。風力発電の利用率は年

第3部 ★ 懇親会

明治大学・アカデミーコモン1Fのレストランにて懇親会を行いました。総勢80名の参加者が、地域交流会のある1都8県(茨城、

栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、静岡)のほか、はるばる愛知や大阪からも集まり、各地域の活動を紹介し合い、にぎ

追加議案緊急動議

NPO法人化を目指した定款は承認されていますが、総会の承認を正式に議事録に記録しますので、第6号議案として追加したい。
◎満場一致で承認されました。

6号議案 特定非営利活動法人化

PV-Netが特定非営利活動法人化することの承認をいただきたい。
【質問1】1条に「特定非営利活動法人と称する」とあるが、内閣府から承認が出るまではNPO法人でないで嘘になってしまいます。附則1に「総会の承認を受けたときより施行する」とあるが、「特定非営利活動法人化の認可を受けたときより施行する」ではないか?

【応答】附則1を修正し、NPO法人化までは、現行の規約を使用。

【確認】附則2に「現行規約に則って議決した事項も、新定款に則って議決したこととみなす」とあるので、規約から定款への移行の支障は特にはないです。

◎満場一致で承認されました。

30%程とPVの倍近くです。RPS法は自然エネルギーの一定供給を義務付けていますが、いずれ義務がなくなっても一般の人が自発的にお金を出すようになれば本当のビジネスと言えます。ドイツではPVによる電力1kWhのプレミアム価格0.4ユーロ(約50円)と高いですが、日本では電力会社が大変ですし、国民コンセンサスが難しいでしょう。自然エネルギーにも競争的要素は必要です。」

PV-Netが取り組むPV-Greenには大きな期待を抱かれていました。

*特定規模電気事業者

やかに交流を深めました。

また、今年5月に開催した愛知万博の地球市民村「光と水のエネルギー広場」でのワークショップの様子などをスライド上映し、万博会場の雰囲気を感じました。

ついに新地域交流会誕生！ 全国に広がる会員拡大

■宮崎地域交流会40名で発足！

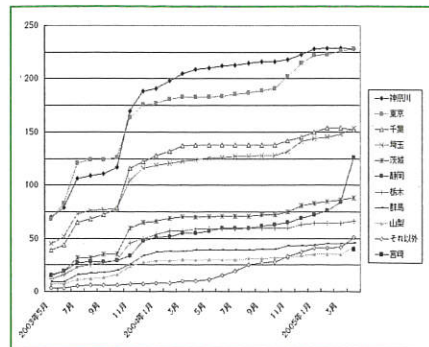
九州・宮崎は「日向（ひむか）の国」と呼ばれ、古来の伝承が豊かで日照時間が国内で最も多い県のひとつ。人口当たりのPV設置量は佐賀と並び全国トップで、その裏づけもあってか、驚くことに寄付金なし会費なしで、PV-Net発足に遅れること5カ月の2003年10月、独自にPV設置者のネットワーク「ひむかおひさま共和国」（会員数200名）を設立していました。経過は「地域の動き」の清水代表の報告（P21）をご覧ください。

「ひむかおひさま共和国」会員の中心から、特にPV-Netの趣旨に賛同され、今回積極的に入会されてPV-Greenへも参加し、発足会員数は40名。現在の山梨、群馬の地域交流会に匹敵する規模です。8月25日宮崎市内における発足集会で地域交流会設立の宣言確認、それを受け8月27日の第2回理事会で新地域交流会として承認されました。代表者は写真家の清水洋香さん。世話人のみなさんとはとにかく明るい元気印のメンバーで、12月大イベントには自費でも大挙して参加しようと盛り上がっています。

■関東圏外の会員拡大

関東圏外初の地域交流会が立ち

●会員数推移



上がったことはPV-Netにとって新たな規模と運営を促す契機になると言えるでしょう。PV-Net発足から「組織の基礎づくり」、2年目は「組織の充実」と基礎固めをし、関東圏内の地域交流会の大半が自立的運営を確立してきています。昨年の総会前の論議でも、これまでの組織づくりを踏まえ、引き続き組織内会員拡大とともに関東圏外への会員・地域交流会拡大の方針を立てました。

今年度は会員拡大を昨年までの委員会だけでなく、より柔軟性と機動性を生かしたプロジェクト方式で行うことにし、そのプロジェクトリーダーを日江井代表理事直々にお話しネットワーク全体で取り組んでいくことになりました。

宮崎の場合は、5月、8月にPV-Greenの設備認定申請を応募する中でスムーズな形での交流会発足となりましたが、そのほかの地域でもPV-Greenの広がりとともに地域交流会設立・会員拡大の動きが進んでいます。まずは9月25日を目標に大阪地域交流会準備会が立ち上がりようとしています。PV-Netの成り立ちと意義、PV健康診断、PV-Greenの説明を兼ねた交流フォーラムの開催をマスコミに大きく知らせ、会員を募る予定です。第2の関東圏外、関西では初の地域交流会が立ち上がります。

さらに中部圏でも交流会立ち上げの動きがあります。昨年、東大弥生講堂で開いた「12月大イベント」の特別報告の中で、愛知太陽光発電設置者懇談会（一昨年12月開催）の代表として名古屋の武田さんが発表されました（会報6号P21「地域の動き」のその他の地域



宮崎地域交流会設立会の様子

の欄で報告あり)。愛知地域交流会の立ち上げは、静岡地域交流会の組織拡大の一環として取り込まれ、本来では関東圏外での第1号となるはずでした。愛知万博にそのエネルギーをとられた面もあり少し延びていますが、年内には中部圏第1号の地域交流会として発足することが期待されます。このほかにも京都、滋賀、岩手、新潟、九州などにも会員拡大の芽が生まれています。図書『わが家ではじめる太陽光発電』の効果でしょう。

■関東圏内の会員拡大

各地域交流会でもさまざまな工夫を凝らして会員拡大に取り組んでいます。最も顕著なのは静岡地域交流会です。詳細は本誌P20-21「地域の動き」静岡の廣畑さんからの報告で紹介されていますが、他の交流会にも大いに参考になるものです。PV-Greenと近隣グループ活動を精力的に行っている埼玉地域交流会でも、いずれ会員拡大の数字がもたらされるでしょう。

特異な会員拡大は山梨地域交流会と事務局の共催による「工場見学」バス旅行です。29名の参加の中、非会員が7名で見学後の会員化が6名という結果から、企画の中身が会員化の動機になったと思われるでしょう。PV-Netの今後のあり方を示唆しているとも言えます。

新生 相談室の運営について

PV-Net2005年度の活動の基本方針として「組織のスリム化と発展」を位置付けることが6月の総会で確認され、それに基づいてスリム化した組織が提案されました。

その中で相談室は、従来の技術・対応委員会の一部門でなく、PV-Netを構成する一組織として独立し、従来の技術・対応委員会、調査委員会の活動内容を吸収する形の重要な位置を占めることとなりました。そして重要課題のひとつである「相談室の充実と事業化」を目指して、消費者（設置者）の

立場に立てる中立的相談機関として社会的に市民権を得るべく、さらに活動を充実させていきます。

実際の相談室の運営に当たっては、次のような主旨と組織で遂行いたします。

■運営の基本

- ①相談室構成員の出身は自由とし、グループ制でテーマごとに活動を行い、成果・提言をまとめる。
- ②地域交流会との連携を密にし、底辺の広がりのある活動を目指す（地域交流会との連絡機能は

- 地域相談員が担当する）。
- ③PVカルテの充実、発電量登録データの品質向上は地域相談員を中心に各地域交流会に委ねる。
 - ④相談対応の活動は常時（休日も）窓口を開いていることを目指す（専任相談員の必要性・方法などについても検討する）。

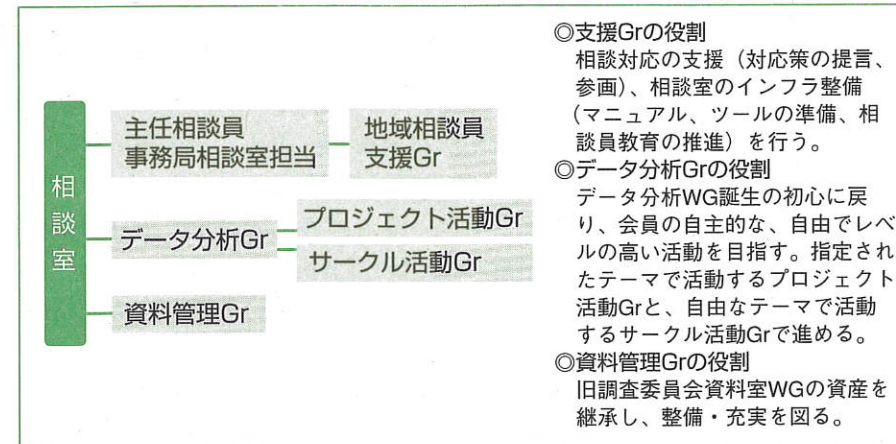
■おわりに

相談室は、その名の通りのトラブルや困り事の相談対応機能以外に、会員の方々がPV-Net参加時に持っていた「何かをやりたい」という技術的要望にも応えられる機能も持ちつつ、新たに資料室も加えて活動範囲を広げていきます。

今まで活動に直接参加いただけなかった会員の方でも、興味を持てる部分がありましたら遠慮なく参加をお申し出ください。多くの仲間と一緒に活動できることがネットワークの意義と考えています。連絡を心待ちにしています。

（相談室座長 国井範彰）

●相談室の組織図



PV-Net川柳第六回

なんだかんだと言いながら、PV-Net川柳は六回目を迎えた。数少ない川柳愛好家のご尽力によるもので、感謝の念に絶えない。

川柳というと「難しく」考える方がお出でになると思いますが、簡単に言うと、季節のない俳句です。ユーモアや皮肉、駄洒落は川柳の本筋ではありません。五七五の生活を詠んだものですが、川柳に似たもので、狂句とか柳句があります。江戸川柳は、人情・世態・風俗を鋭くとらえ、滑稽・風刺・機知などを特色とします。

①お隣のエアコン手伝う我がパネル（埼玉・的場1号発電所）
②ありがたや光が電気や金（かね）になる
③あら不思議使った分まで売れるとは
④どの屋根もクリーンエネルギー溢れる（埼玉・XYZ）

（以上二句静岡・田中東紀男）

今号のPV-Net川柳も、秀作揃いだ。

①句目は、自分の家で発電した電気（力）が、隣家のエアコンを動かしている。我が家は27円の収入になるのでエアコンの電源を抜いてある。その様が目に浮かぶが、庶民のチエでもあろう。

②句目は、目に見えない太陽光も、屋根にパネルを乗せるとマジシャンもビックリ、電気になる。その電気、我が家で使用できない余剰分を電力会社が買い取ってくれる。売れた分でビールをもう一本追加だ、なんて。

③句目は、太陽光発電は環境に貢献し、CO₂排出抑制の一助にもなっている。その環境価値分をPV-Greenに参加して売ろう。また、大吟醸もう一本追加だ、いいのかわちゃん。

④句目は、原油高でガソリンも130円を超えた。だが、燦々と輝く太陽光がどの屋根にも満ち溢れている。モッタイナイ。太陽光発電が普及し、ソーラーカーが普及すれば、ガソリンの値上がりも気にならない。

いかがでしたか。次号では、あなたの川柳とお会いしたいです。（担当：普及広報部・松田廣行）

宮崎から全国に発信する太陽光発電普及政策提言

■はじめに

私たちの生活は、膨大なエネルギーの消費を伴っています。とりわけ、私たちの国をはじめ先進国と言われる国々では、化石燃料の使用が多くを占めています。そのことがもたらす影響として、大気中の炭酸ガス(CO₂)増加による温暖化が懸念されています。

温暖化により、自然災害の激化、植生への影響、砂漠化、海面上昇などが生じると言われています。このようなことを避けるために、省エネルギーとともに、炭酸ガス増加を伴わない、太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーの利用が望まれます。

■ドイツのエネルギー政策

ドイツでは、2000年に新エネルギー法がドイツ全域に施行され、太陽光発電の電気を20年間、電力会社に買い取り義務を負わせ、買い取り価格は金利、保守反映された売電価格75円/1kWhを保証しました。太陽光発電設置費用200万円を投資すれば、20年間で400万円が売電代で戻ってくるシステムです。

このように、太陽光発電設置者が儲かる政策で国民を誘導していることにより太陽光発電の普及が爆発的に進んでいます。昨年度までは、日本は太陽光発電の導入量では世界一でしたが、今年度中にドイツにトップの座を奪われる状況です。

ドイツの考え方は、太陽光発電設置者だけに負担させるのではなく、「太陽光で発電した電気は、使っているみんなで負担するのが平等」という考えです。この高い売電のための国民の負担額は毎月140円です。

日本の電気料金でも、電源三法で1kWh当たり44銭のお金が取ら

れています。全国の1カ月の平均電気使用量は380kWhなので、毎月167円、電源三法の資金を負担しているのです。この配分を原子力から自然エネルギーに配分すればドイツと同じことが可能だと思います。

■太陽と緑の国、宮崎からの提言

宮崎は「太陽と緑の国」で有名です。そこで、全国トップクラスの日照時間をフルに利用できる太陽光発電政策について、宮崎から全国に発信する提言をします。

1) ドイツの新エネルギー法の宮崎県特区申請を行う

宮崎はドイツに比べて発電量が多いので、1kWh当たり約50円でドイツと同じ効果。日本の現状は、契約は1年更新で買い取り義務なし、電気料金の低下に応じて売電料金も低下するので、現在の20年の償却は延び、何年になるかわからない。設置者だけの負担。

2) 地方公共団体で京都議定書の目標6%を削減できなかった分は、庁舎使用電力の6%分、グリーン電力(風力・太陽光・バイオマス・小水力)を買う義務を負わせる

3) ソーラーボーナス1万円創設
太陽光発電設置者全員に夏と冬に1万円を支給。

4) 太陽光発電振興宝くじを創設
売上金を太陽光発電普及策に利用。

5) ソーラー・省エネハウス・太陽光発電・太陽熱温水器の普及支援策

①家の固定資産税優遇

②無金利融資制度導入

6) 各市町村単位でエネルギー自給100%の目標値を設定

7) 公共料金の電気・ガス・水道の環境型料金の導入(家庭への導入)

・平均使用量以上は環境負荷が大きくなるので10~30%割増し料金を導入

・データは宮崎県のデータで電気300kWh/月、都市ガス18m³/月、水道30トン/月

・使用量を平均以下に押さえる効果があり、割増し料金のお金は省エネ・新エネ支援制度に利用する

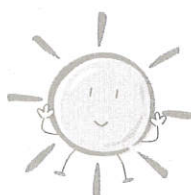
■おわりに

以上の政策を実現していけば、宮崎から全国に太陽光発電政策を発信し、宮崎を「太陽光発電王国」にすることが可能です。

21世紀は環境の時代です。環境に優しいグリーンな電気を高く評価し、コストの安価な電気だけを求めない意識や純国産エネルギーを育てる意識が大切です。

現在起きている異常気象は、地球からの無言の警告とします。地球が減る前に、地球は人類を滅ぼします。人類は絶対地球には勝てないのです。地球からの警告を素直に受け止めて、省エネや地域の特殊性を活かした自然エネルギーを増やす対策が必要です。

(宮崎地域交流会世話人 楠見 博)

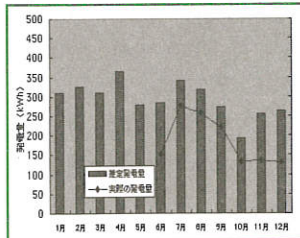


連載 トラブル改善の取り組み ⑦

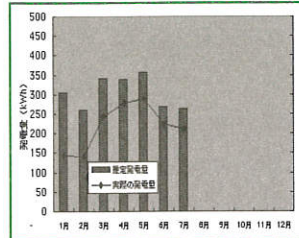
■ポストイン活動で不調発電所を発見

今年1月上旬、「発電量が大変少ないシステムがある」と静岡地域交流会の世話人山下さんから連絡を受けました。山下さんがポストイン活動中に相談者(大澤美春さん)のお宅に行き当たり、相談を受け、PV健康診断を行ったところ、秋から冬にかけて発電量が半減、それ以外の季節では推定発電量より2割減という結果でした(図1&2参照)。

●図1 2004年発電量の推定と実績



●図2 2005年発電量の推定と実績



■大澤さん宅のシステム設置とその後の経緯

・昨年6月、A社の訪問販売を受けC社製の2.88kWを設置。「日当たりが良いのでよく発電する。家全部の電気が賄える」という営業担当の話通りの発電量は得られず(工事は下請けのB社が行った)。

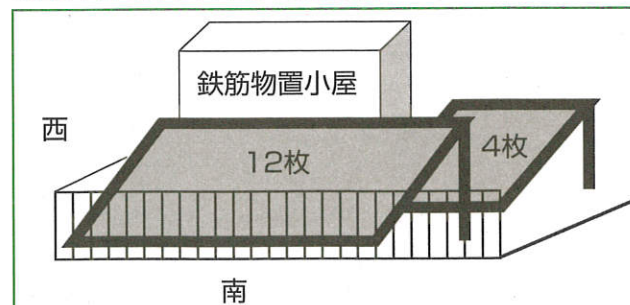
・秋に発電量が半分になりA社へ連絡。現場監督をした担当者が来て「みんなこの程度。妥当な発電量」と伝えられたが、全く納得いかず(はじめの話と違う)。

・今年1月上旬、静岡世話人山下さん訪問時に相談。
・PV-Netから陰の影響で発電量が下がることを初めて聞き、設置状況を確認(図3参照)。

・C社のPV部門に勤務する世話人の知人よりA社へ今件の連絡が入ったためか、その後、A社の営業担当が大澤さん宅を訪ね、「後日、下請のB社が来る。PV-Netは発電量に関し嘘のデータを教えている。お宅の発電量は普通」と言って帰った。

・後日、下請のB社が来て機器のチェックを行い、異常がないことを確認。「後面パネルが前面パネルの陰になる設計であったが、元請(A社)の設計なので従わざるを得なかった」と伝え、陰になるパネルの角度を無償で10°上げる工事を行うことを約束。

●図3 大澤さん宅のシステム設置状況



■相談室の判断

大澤さんは非会員だったため(業者に対する不信がPV不信につながり、入会を拒否)、相談室として取り扱うべきか見解が分かれませんでした。結果は、PVの健全な普及を目指す上で見逃せない事例として、アドバイザー的な対応を行うことになりました。

■その後の経緯2

・2月中旬、「パネルの角度を10°上げるだけでは発電量は変わらない」ことがわかり、A社社長へ電話で交渉。後面パネルを物置小屋の上に移設する工事を3月に行う約束を取り付ける。PV-Netへも問題が解決しそうだという連絡が入る。

・4月半ばになるも工事は行われず、催促の電話にも「来月必ず」の返事のみ。約束を反古にされるのではとの不安から、PV-Netの正式なサポートを受けて本件を解決したいとの申し入れ(入会希望)あり。
・入会を受け、相談室では現地調査を決定。

■現地調査報告

4月下旬、設置状況の把握とこれまでの経緯の再確認のため、静岡地域相談員森さん、静岡世話人山下さん、事務局伊藤の3名で現地調査へ行きました。
【設置状況】陸屋根設置、前12枚・後4枚、南向き。付近に高い建物もなく日当たり良好。前面パネルは柵の陰(1年通)、後面パネルは前面パネルの陰の影響を受ける(秋冬)。後面パネルは小屋の陰の影響も考えられる。屋上面積が少ないため、後面パネルの移設は鉄筋小屋の上。その際の安全性に不安は残る。

■移設工事終了と今後の展開

8月中旬、いまだ工事を先延ばしにしていたA社に対し、PV-Netの正式なサポートを受けている旨を記載した移設工事依頼書を提出。中心的要望は以下。「約束の移設工事日程を8月23日までに知らせ、9月13日までに工事を行うこと。」

翌週、A社から工事日程が伝えられ、8月下旬、山下さん立ち会いの下、B社による移設工事が行われました。大澤さんから「諦めかけていましたが、PV-Netの会員となり、対応してくださった方々の熱意に希望が見え、前向きに立ち向かうことができました」と感謝のことばをいただきました。

発電量に大きな影響を与えていた後面パネルの移設が完成したことでひとつ荷を下ろしましたが、すべてが解決したわけではありません。今後の発電量の推移を観察しながら、再度対応を検討する予定です。

特集2 動き始めた「PV-Green」!

～自然エネルギーを選ぶことができる、グリーン電力証書システム～

グリーン電力証書「PV-Green」証書の活用事例、会員の参加状況など、最新状況を紹介します。個人宅の太陽光発電所の自家消費電力分を束ね、その環境価値をグリーン電力証書として売買する取り組みは、「世界初」。さらに活用の場が増えるよう、みなさんも応援してください。



ap bank fes '05 写真の様子

「PV-Green」証書が売れています!

■第1号「ap bank fes '05」

記念すべき最初の販売先です。7月16～18日、静岡県掛川市内「つま恋」に3日間合計で6万人の聴衆が集い、真夏の暑さを吹き飛ばす盛り上がりを見せました。当日イベントで使用する電力18,000kWhすべてがグリーン電力証書の利用により自然エネルギーで賄われ、PV-Netは18日の使用電力6,000kWhに対しPV-Green証書を発行しました。

※参考：「ap bank ホームページ」
http://www.apbank.jp/index2.html

■第2号「坂本龍一Japan Tour 2005」LOHASなコンサート

7月24日の東京を皮切りに、大阪、名古屋、福岡と全国を縦断。10年ぶりとなる坂本氏のジャパントアラーはリハーサルから使用する電気は100%グリーン。リハーサルスタジオで消費される電力に対してPV-Green証書が使われました。

LOHAS(ロハス)とは、「Lifestyles of Health and Sustainability」の頭文字をとった略語で、「健康と持続可能性」の視点から、自覚的な消費・生活行動をとる社会層として、注目を集めつつあります。坂本龍一氏は、LOHAS層に絶大な影響力を持つオピニオンリーダー的存在でもあり、今回のPV-Green証書の活用はとても大きな意味があります。

■自治体も購入! 「ゼロ・カーボン・シティ東西南北写真展」

9月2～7日、東京都庁第一本

庁舎45階/南展望室にて、都と英国大使館の共催で写真展が開かれました。世界的な写真家集団「マグナム・フォト」による写真をメインに、気候変動に関するドキュメンタリーや地球温暖化防止に率先して取り組む企業の環境CMなどの映像も展示。この写真展は世界60カ国100都市で開催する気候変動をテーマにしたキャンペーン「ゼロ・カーボン・シティ」の一環として行われました。

※参考：東京都プレスリリース
http://www.metro.tokyo.jp/INET/EVENT/2005/08/21f8h100.htm



写真展会場に掲示された「PV-Green証書」ほかグリーン電力証書「このイベントで使用している電力はすべて自然エネルギーでまかなわれています」

■個人向けにも証書販売を開始! ～産地指定に驚きの声～

これまで法人(企業・自治体など)向けにのみ販売されていたグリーン電力証書ですが、個人向け販売も各社スタート。PV-Greenもかわいらしい缶バッジ付きのミニ証書を発行開始。オーガニック野菜を選ぶように自然エネルギーを選べるグリーン電力証書を、福島から宮崎まで、産地を指定できるのはPV-NetのPV-Greenだけです。地域分散型の太陽光発電所ならではの地域特産グリーン電力証書の登場に驚きの声が上がっています。

■星を愛する集いもミニ証書でグリーンに

清里天文同好会主催の清里スターフェスティバルでもPV-Green証書が活用されました。好評だったのはグリーンな電力で沸かした野点コーナー。グリーンな電気で作ったカレーも販売。実は、同好会の会長を務めるのは山梨地域交流会の大友哲さん。今回のイベントグリーン化の立役者です。

■今後の販売予定「PV-Netならではのグリーン電力証書～PVメーカーとの商品開発～」

グリーン電力証書を活用して既設PVへの設置コスト還元を行うだけでなく、新規設置を促すプログラムを、PVパネルメーカーと開発しています。また、「エコ志向のアパレルメーカー」「有機にこだわる食品小売業界」のほか、各地の環境イベントでの活用が大いに期待されます。気がつけば、どこもこだわりの会社やイベントばかり。環境や安全への配慮、商品への深い愛情があり、イベント開催への想いがあり、その延長線上に、PV-Greenと手を携えて相乗効果を生んでいく、そんな関係が、これからも育まれていきます。

■あなたの情報提供、提案をお待ちしています

みなさんの地域の環境イベントでもPV-Green証書を活用してください。PV-Green事業が軌道に乗るためには、PV-Green証書がますます多くの場で活用されていくこと

が重要です。地域で魅力的な事業をしている元気な企業、商店街など、太陽光発電ならではの地域特産PV-Green証書活用の場はたくさんあります。身近なところから自治体や地元企業への紹介、働きかけに協力をお願いします。「太陽でつむぐセーター」「太陽で奏でられるコンサートホール」など、グリーン電力商品アイデアもお待ちしています。

【実用されている他社の例】

- ・「グリーン電力コンサート」：森山良子グリーンコンサートinオクマ
- ・「グリーン電力パビリオン」：愛知万博愛知県館長久手・瀬戸両館
- ・「グリーン電力研修所」：年間使用電力量約100万kWhのほぼすべてをバイオマス発電などのグリーン電力証書を活用し自然エネルギーで賄う
- ・「グリーン電力タオル」：会社の全使用電力量に相当するグリーン電力証書を購入し「風で織るタオル」を販売

【事務局に寄せられる情報の例】

- ・昨日見学に行ったビール工場に風力のグリーン電力証書を発見。地元産PVのグリーン電力証書もあるとアピール。連絡先も教えてきたからよろしくね。(神奈川県)

設備認定の申請も続々!

■手続きのススメ

3月、5月、8月に発電設備が認定されています(表1、表2参照)。次回の申し込み締め切りは10月31日です!(グリーン電力認証機構委員会は11月30日開催)

PV-Greenへの参加に必要な提出物は以下の通りです。

- ①参加申込書
- ②直近の、電力会社が発行する売

●表2 年間のスケジュール

| 募集期間 | 設備認定 | 発電量記録開始 | 年次発電量報告(初回) | 年次発電量報告(翌年以降:くり返し) |
|-------------|-------|------------|--------------|--------------------|
| 第1期 ~4月30日 | 5月中旬 | 6/1~6/15 | 翌5/15~6/15 | 翌々5/15~6/15 |
| 第2期 ~7月31日 | 8月中旬 | 9/1~9/15 | 翌8/15~9/15 | 翌々8/15~9/15 |
| 第3期 ~10月31日 | 11月中旬 | 12/1~12/15 | 翌11/15~12/15 | 翌々11/15~12/15 |
| 第4期 ~1月31日 | 2月中旬 | 3/1~3/15 | 翌2/15~3/15 | 翌々2/15~3/15 |

※認証機構委員会の開催状況などにより、日付は若干前後することがあります

- ・自分が企画しているNGOのバスツアーをPV-Greenで賄いたい可能性がある?(愛知県)
- ・昔勤めていた会社にPV-Greenを話してみるよ。(神奈川県)
- ・議員に当選したからグリーン電力を取り上げるよう県に働きかけたい。資料を送ってください。(静岡県)
- ・その他、独自に企画し、販売のコンタクトを取る会員の方が大勢います。小さなことでも、是非情報を事務局へお知らせください。販売先5号、6号に続くとPV-Netも一段と飛躍するでしょう。

電量検針票コピー

③「グリーン電力証書の販売委託に関する契約」2通(住所氏名記載、捺印のあるもの)

④PVカルテ(既に提出済み、またはホームページの会員のページ利用者は不要です)

※資料をご請求ください。インターネット利用者は会員のページからダウンロードできます。

得と会員のPV-Greenへの参加の弾みになると思います。

特に証書の隣に「東京都の地球温暖化対策 電気のグリーン購入」というパネルがありますが、そこにクローズアップとして「グリーン電力証書」を囲みで図解しています。このパネルとこのイベントへのグリーン電力証書の実物が一緒に写真を非会員に見せたら会員倍増、いや3倍増も間違いなしです。東京都の購入という実績は、ほかの自治体への売り込みにも大きな力となると思います。

■環境省「平成17年度地域協同排出抑制対策推進モデル事業」を受託!

事業内容は「太陽光発電の自家消費分のグリーン電力証書化による地場産ブランドの自然エネルギー市民参加型導入促進事業」。グリーン電力証書システムPV-Greenの仕組みを活用し、PVの新規設置促進モデル化を進めます。地域の住民と共同で行うCO₂排出抑制のための事業で、他の地域でも応用可能性のある事業をモデル事業として実施、効果の評価を行い、成功事例をマニュアル化してさらに普及を進めようとするものです。

●表1 PV-Green設備認定状況

| 地域/認定月 | 3月 | 5月 | 8月 | 地域別合計 |
|--------|----|--------|--------|-------|
| 福島 | — | 1 | — | 1 |
| 茨城 | — | 12 | 3 | 15 |
| 栃木 | 4 | 5 | 3 | 12 |
| 群馬 | — | 5 | 3 | 8 |
| 埼玉 | 4 | 20 | 37 | 61 |
| 千葉 | — | 16 | 3 | 19 |
| 東京 | 6 | 19 | 7 | 32 |
| 神奈川 | 7 | 20 | 8 | 35 |
| 山梨 | — | 3 | 19(20) | 22 |
| 静岡 | — | 27(28) | 38(40) | 65 |
| 愛知 | — | 1 | — | 1 |
| 滋賀 | — | — | 1 | 1 |
| 京都 | — | — | 1 | 1 |
| 大阪 | — | 1 | 4 | 5 |
| 山口 | — | 1 | — | 1 |
| 香川 | — | 1 | — | 1 |
| 福岡 | — | 1 | 1 | 2 |
| 宮崎 | — | 21 | 18 | 39 |
| 合計 | 21 | 154 | 146 | 321 |

単位:名、()内は契約口数

グリーン電力証書システムの意義をもう一度振り返ると……

■グリーン電力証書システムの意義

日本ではまだ個人が電力会社を選ぶことはできません。また、電力会社から購入する電力にはさまざまなエネルギー源からの電気が混ざっています。では、電力の種類を自由に選ぶことができるのなら……？

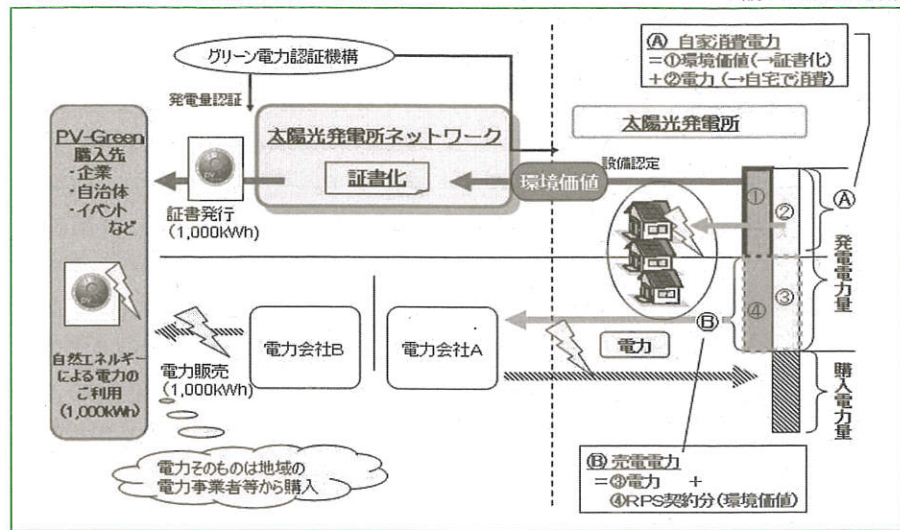
自然エネルギーからの電気は、「電力そのもの」と省エネルギー（化石燃料の使用削減）、CO₂排出量削減などといった価値＝「環境価値」を持っています。このうち「電力以外の価値＝環境価値」を証書化し、自由に売買できるようにしたのが「グリーン電力証書シス

テム」です。環境に優しいグリーンな電力の「環境価値」を「PV-Green証書」の形で購入することで、電力会社からの電力を使いながらも、自然エネルギーから発電された電気を選んで利用できるようになります。つまり、自然エネルギーの発電設備を自ら設置することなく、グリーン電力を利用できる便利な仕組みなのです。

PV-Green証書を買うことは、有機の野菜を選ぶように自然エネルギーを選び、まだ発電コストの高い太陽光発電をしている個人のエネルギー生産者さんを応援することであり、PVの普及にもつながり

●図1 グリーン電力証書システムの流れ

(例: 100kWhの場合)



ます。ひとり一人の行動と選択によって自然エネルギーを増やし、地球温暖化防止につなげることができるのです(図1参照)。

■法人・団体にとっての購入の意味＝自然エネルギーを選ぶ3つの理由

1. 団体・企業イメージアップ、環境コミュニケーション、マーケティング

HPなどでの広報を通し、環境への取り組みによるイメージアップや独自のグリーン電力商品の開発を通して販売促進、投資家に対する広報に活用。ブランド化や新規購入層へのアピール可能(風で織るタオル、風力100%のビルなど)。

2. 環境経営の一環として

利益追求のみでなく、持続可能な社会づくりに向けて、地域密着型の自然エネルギー支援を、企業の社会的責任(CSR)として行う。持続可能な社会は、持続可能な経営の基盤と位置づけられます。

3. 環境規制リスクの分散・回避への先見性

将来考えられる環境税・排出規制などの導入といった環境規制リスクに早期に対応することで、企業としての先見性をアピール。CO₂排出削減貢献量として環境報告書などへ掲載可能。

排出権取引、といった温室効果ガスの排出抑制となる経済的な手法が議論の過程にあり、また、グリーン電力証書の将来的な排出規制に対する効力についても定まっていません。グリーン電力証書が、CO₂の排出権取引や環境税制との相互活用が可能になれば、証書の価値は高まります。

現状では、2003年から、経済産業省・環境省による排出量取引試行事業に、グリーン電力証書発行のパイオニア、日本自然エネルギー(株)が参加し、排出量取引で扱う可能性について探っています。

3. 電気のグリーン購入

文具類やOA機器のように、「電気」もグリーン購入の対象品目になると、環境に配慮した物品として購入が促進されるのではないかと指摘されています。ところが、グリーン電力証書発行者がこれまで1社のみで需要側に選択の自由がなかったため、グリーン購入対象品目になっていませんでした。現在、PV-Netほか1社がグリーン電力証書市場に参入し、3組織がグリーン電力証書を提供できる状態になったことで、環境省に建設的な働きかけをし、道を開いていくことも考えられます。

実は昨秋、都は国に先駆けて電気のグリーン購入を始めました。内容は、電気の自由化対象施設について、①競争により電気を購入する場合を対象とし、②購入する電気について5%以上の再生可能エネルギー利用を電気事業者に求める、というもの。②の利用率確保に、第三者認証を受けたグリーン電力証書、自社発電、または他社発電分の供給のいずれの方法でも良い、と定めています。すでに、江戸東京博物館で使用する電気は、日本で初めて「グリーン購入」により購入されているのです。突破口が、開きつつあると言えます。

※グリーン購入法：平成13年4月から、グリーン購入法(国等による環境物品等の調達に関する法律)が施行されました。国などの機関にグリーン購入を義務づけるとともに、地方公共団体や事業者、国民にもグリーン購入に努めることを求めています。
 ※参考：東京都「電気のグリーン購入制度」<http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2004/10/20ear400.htm>

このほか、「電気事業者等による新エネルギー等の利用に関する特別措置法」(以下RPS法)の動向からも目が離せません。RPS法の見直し・検討が行われる可能性のある2006年を前に、改正の議論が始まっています。

新エネルギーなどの導入目標値の引き上げ、自然エネルギー電源ごとに異なる育成策(例えば、PVの価値を他より高く設定)などが講じられた場合、PVによるグリーン電力証書が、市場で必要となる可能性が高まります。そのような点からも、RPS法の見直しは看過できないテーマです。

■環境省ソーラー大作戦との関係

環境省が野心的な来年度予算請求を準備しています。その名も「ソーラー大作戦」。地球温暖化対策として、日本が世界をリードするPVの導入を前面に打ち出した施策で、個人住宅、大規模宅地、大

規模・集中導入、自治体・学校への導入、情報基盤整備、の5つの柱からなります。

個人住宅に関する事業「ソーラー・マイレージクラブ事業」は、地域協議会を通じPV設備を集団的に導入した住宅が大幅なCO₂削減を達成した場合に、削減量に応じた助成(設置後3カ年)を行うというもの。つまり、省エネ効果があるほど補助を受けられるこの政策は、個人の行動に影響を与え、結果的に導入費用のペイバックタイムの短縮化にもつながります。

ちなみに、この事業の対象者はPV-Greenに参加することが可能でしょうか? 当該事業は削減量が対象、PV-Greenでは発電電力量のうち自家消費電力分の環境価値が対象なので、対象は重複しておらず、両方への参加は可能です。

■PV-Green事業部の動き

PV-Greenへの参加募集説明会を各地域で徐々に始めています。エネルギーも地産地消の時代。地域ごとのPV-Green販売先の開拓も、これから本格化していきます。PV-Greenの参加応募、地元での働きかけに、大いにご協力をお願いします。

グリーン電力証書をめぐる動向

■普及に向けた課題と展望

1. 税務処理における課題

原則として、グリーン電力証書は「一般寄付金」扱いで購入され、法人税の課税対象となっています。このため、グリーン電力証書を購入する側にとって、①法人税分だけコストが高い環境対策となる、②「寄付支出」に対する強い意思決定が必要、になっています。

一方、一般の電気料金は「電気料」として損金計上可能で、法人税の減免対象です。例えばオランダでは、グリーン電力証書は電気

料金とともに「電気料」として計上可能であり、さらに証書分は環境税減免対象にもなっています。

グリーン電力証書の本格的な普及に向けては、「グリーン電力証書を購入するインセンティブ」が大きな後押しになります。そのための方策として考えられるのが、以下に記すエネルギー・環境政策的にグリーン電力証書を評価する方法と、電気のグリーン購入です。

2. エネルギー・環境政策的にグリーン電力証書を評価

日本国内では、炭素税、環境税、

おもしろ海外事例 ~Bonneville Environmental Foundation(BEF)の「Mini-Green Tags」~

1年中白い雪をかぶって美しいマウント・フッドやマウント・パチェラーといった名だたるスキー場のあるオレゴン州。スキー場にとっても温暖化は無視のできない大きな問題です。そこでリフト操業にかかる消費電力量分の相殺に、BEF(ボンネヴィル環境基金)のグリーン電力証書「Green Tag」367,000kWh分を活用。さらに個人も一緒に何かできるようにと、スキーやスノーボードなどウィンタースポーツを楽しむ人々が近郊の町からスキー場を往復する際に排出するCO₂分の相殺用に、2003年から個人向けのMini-Green Tags(1枚あたり100kWh分、2ドルの環境価値)をリフト券売り場で販売開始。2003-04の冬には1950枚のMini-Green Tagsと10往復分の価値があるGreen Tag172枚が売れ、合わせて429tの温室効果ガス削減に貢献し、自然エネルギーのさらなる普及活動につながっています。(出典: BEFホームページ)



↑リフト乗り場の看板に書かれた、リフト操業がグリーン電力で賄われている文言

→リフト券売り場で販売している個人向けグリーン電力証書「Mini-Green Tags」

愛知万博出展の様子とその後の報告

【現地からの報告】— 愛知万博ボランティアスタッフ 平間稔夫

都筑事務局長より「鑑賞に値する万博焼け」とのことばをいただきました。ワークショップ（以下WS）の製作、会場への設置、期間中の運営、そして撤収、すべてにお付き合いしました。

終わってみれば、更地だったソーラータウンは759戸、4丁目まで広がるほどの大タウンに。「太陽光発電でドン」は子どもからお年寄りまで総勢3080名が挑戦。ミニ・ソーラーカーレースの参加者数はもはや数え切れません……。このように書いても期間中の盛況を説明し尽くしたことはありません。

【万博WSのその後】

【ソーラータウン】参加者へ完成した町の様子を知らせるハガキを送り、PV-Netのホームページに町が完成するまでの様子がわかる写真をアップしています。万博で見かけた市民団体から出展の要請を受けるなど、とても反響が大きいWSです。総会で展示した際もみなさんの関心を引きました。

【太陽光発電でドン】7月中旬に行われた静岡県掛川市のイベントに3日間出展、若い方たちに大人気でした。借り物である手回し発電機は自分たちでつくことにし、該当する助成金に応募しています。

【ミニ・ソーラーカーレース】7月下旬の東京都の環境イベントで職員の方から「是非に」と依頼があり出展しました。また、マイクロソーラーカーを100台寄付くださった（株）学習研究社さんより同製品を購入（限定販売）し、出展の傍らで販売したところ、瞬間に売れてしまいました。この反

いのは残念です。

オープン前、100円の費用をいただくことに抵抗を感じていた「ソーラータウン」も、始まってみれば親子で楽しみながらPVの理解を深められるすばらしいWSでした。子どもが設置した家を家族そろって、あるいは友だち同士で再度見に来るリピーターも多く、設置してある家を指さして喜んで子どもたちの姿はともうれいものでした。

当初はお日さまが陰ると閉店していた「太陽光発電でドン」も、後半に入ると客足が途絶えない

響の大きさを伝えると「再生産を考えてみます」との連絡をいただきました。

万博プロジェクトメンバーが大変な想いをして生み出したWSは、万博の地で大きく育て上げられ、すばらしいものとなってPV-Netへ戻っ

め、日が陰っても中止できない日が続きました。小・中学生の社会見学の見学の引率の先生から「是非やらせてほしい」と頼まれ、雨の中で行うこともありました。

また、「ミニ・ソーラーカーレース」は、光が当たると動き、陰に入ると止まるという簡単な仕組みゆえ、誰もが太陽エネルギーを容易に理解できるWSでした。

これらの大人気のWSを支えてくれたのは熱意あるPV-Net会員であり、学生さんや地元ボランティアのみなさんでした。みなさんの協力なしでは円滑な運営は不可能でした。この場を借りて心からお礼を申したいと思います。

てきました。それは展示だけに限らず、人的つながり、経験、人の想い、さまざまなものが含まれています。これらをさらに大きく広げ、他者とつながる力を持っている、それがPV-Netだと感じています。

バイオマス屋から見た、PV-Net展示観察記

— 森と経済エネルギー研究所 安原克彦

所定の机からはみだし、ドンドン広がる「ソーラータウン」。絶えず誰かが回している「太陽光発電でドン」。自然エネルギーの中でも、生き物が産み出すバイオマスエネルギーに携わる私から見た「太陽光発電」は、当初、「現実的だけど小規模」「WS展示も商品カタログみたいだ」という印象でしたが、それは思い違いでした。小さな家をつくったり、体を動かし太陽と競争するWSは、「映像」や「手を触れてはいけない展示物」中心の人気パビリオンより、きっと子どもたちの心に残ったことでしょう。そしてそんな手間のかかるWSを準備し運営していたのは、毎週新しくやってきたPV-Net会員さんであり、準備段階から奔走した事務局員さんでした。きっとみなさん

ひとり一人のエネルギーが、我が国のPV発電量を世界のトップに位置づける力と共通するのだと思います。

ひとりから始められる太陽エネルギーの面白さ、そして人というバイオエネルギーの凄さを実感した1カ月間でした。PV-Netさんと一緒にやれて面白かったです。ありがとうございました。次の活躍も期待しています！



ソーラータウンの全貌

パネル工場と太陽光発電所見学の旅 (in山梨・長野)

7月29、30日（金、土）、山梨地域交流会と事務局の共同企画で見学会を開催しました。まずは長野県にある三菱の工場2カ所を訪問。中津川工場で換気扇工場を見学し、PVの技術的な説明を受けた後、飯田工場へ移動して、なんと事前には「見学不可」と言われていたパネルの製造工程を見学させていただきました。これには事務局を含め参加者全員驚きと喜びがひとしおでした。

この工場見学で一貫して案内・説明を行ってくださったのが三菱電機（株）の前川登さんです。製

■見学会参加者の感想

— 埼玉県狭山市・桑原紀仁

パネル工場は、競争が激しい昨今、企業秘密として見学範囲が制約されることを事前に聞いていたので期待はしていませんでした。しかし三菱中津川工場に出迎えてくれた前川さんは「無駄を少なくすることは地球に優しいことで、それはまさに自分に優しいこと。自分たちのできることは身近にいっぱいある」という自然環境保全への熱意と実践の中から出てくる話や、ソーラーパネル開発の最先端技術を、ユーモアたっぷりにわかりやすいことばでお話してくださいました。企業人の粋ではなく、存在は大きな驚きでした。

もうひとつの驚きは、なんと間近でパネルの製造行程を見学できたこと（飯田工場）。前川さんのお話と工場見学の体験は、私たちが一般の方々にPVをわかりやすく説明するのにとても参考になりました。そのほか山梨地域代表の大友さんの農地発電所、その近所にあるミニ水力発電所など、私にとってまさに目から鱗です。中身の濃

造のプロとしての深い知識・経験を持つと同時に、企業人という枠を超え、地球を愛するひとりの人間として私たちに接してくださった姿勢に参加者一同感激し、夜の懇親会では前川さんのユニークな人柄と工場見学の話で持ちきりになりました。

翌日は前日の工場見学後に説明を受けた飯田市の「まほろば事業」の市民協同発電所をバスの中から数カ所見学した後、山梨県の農地発電所へ。北杜市大泉町の南斜面の水田に何十kWもの太陽電池パネルを設置した発電所にみな驚嘆し

い2日間を過ごせて感激でした。

— 埼玉県狭山市・横尾秀子

PVに大した知識もなく物見遊山で参加しましたが、参加者のPVにかかる期待や自然に対する想い、制作者側のものづくりに対する情熱、見学先でも地球を守ろうという動きが少しずつでも確実にあちこちで芽生え育ってきていることが実感でき、本当によかったです。

— 東京都稲城市・山本 淳

4月に入学した放送大学大学院のゼミ仲間から見学ツアーの情報が入り、試験直前でしたが「まよ」と参加しました。結果として本当によかったと思っています。メーカーの方からは「現状より変換効率が大幅に向上することはない、コストも大幅には下がらない」と言われ、今後設置を検討している身としては落ち込みましたが、飯田市の取り組みや大友さんはじめ山梨のみなさんの驚異的な熱意に触れ、「実践している人はすごい」と、力づけられました。みなさんに大感謝です。

ました。数社のパネルが設置してある中、一般の屋根の上では見たこともないような緑色のパネルも。パネルの総合展示場のようなものでした。

農地発電所のすぐ隣には最後の見学先、ひまわり水力発電所「ひまわりニューエネルギー」がありました。日本に豊富にある水源を利用する水力発電の可能性を大いに感じ、自然エネルギーへの視野が大きく広がった見学先でした。

参加者と受け入れ側、そして企画者が一体となり、本当にすばらしい見学会となりました。



見学会集合写真。飯田市、市民共同発電所前にて

ひまわりニューエネルギー見学

— 山梨地域交流会代表・大友 哲

「ひまわりニューエネルギー」は、水力発電の先進国であるヨーロッパの機器メーカー数社と提携し、発電機器の輸入から施工まで一手に引き受けている珍しい会社です。彼らの取り組みを含め、施工実績の紹介と説明が行われました。チェコ製のマイクロターボ水車は0.5~15kWと最も小型の発電機で、日本の電力系統に連系するように工夫すれば、農業用水路など多くの場所に設置が可能だという注目すべき話でした。実際の水力発電設備も見学し、PV同様自然の力を利用した水力発電に参加者の関心も高まり、予定時刻を大幅に過ぎて終了しました。

会員の広場



投稿お待ちしております！

会員の広場では、みなさんからの投稿を募集しています。1000字以内で、PVに
まるわるエッセイ、コラムなど、思いのままに書き綴っていただいた文章を、封書、
FAX、あるいはE-MAILで事務局会報係までお寄せください。

ap bank fes'05に参加して

【静岡地域交流会副代表・廣畑雅己】

「つま恋、野外コンサート」。この名称から私が連想するのは30年前の「拓郎、かぐや姫5万人コンサート」です。私が学生の頃、友人たちと足を運びました。徹夜で歌い、踊り続け、「朝までやるぞ」と叫んだのを思い出します。もちろん髪は長く、肩までついていました（今では考えられませんか）。

今回はPV-Net会員であるとともに掛川市役所環境保全課職員ということがかかりを持たせていただきました。

■まずは、環境保全課職員としての感想から

当初、4月頃、「無農薬農産物や新エネルギー関係の活動をしている団体を教えて欲しい」という依頼があったとき、「本気で無農薬の出品をお願いするには、時間が足りないのではないかと。大量のロットを必要とするならば、少なくとも1年前から準備しなければ間に合わないし、多くの種類は提供できない。事業自体が『まゆつば』で、各団体に迷惑を掛けることにはならないか」と担当者に話しました。

その後、ap bank自体は大変立派な考えで活動され、信用がおける組織ということはおわかりなのですが、6月になっても何の進展もなく、結局、無農薬農産物も新エネルギー関係団体も何ら参画することなく終わってしまいました。掛川市のつま恋で行うイベントなので、つま恋やタクシー会社が儲かるだけでなく、市内や周辺のさまざまな環境団体が連携し、「act locally」の思想のもと、参加の若者たちともかかわりを持ったイベントになればよかったのに残念でした。

とは言えあくまでもコンサートが主で、環境というスパイスがほんの少し隠し味で、ということならこの程度なのかもしれません。ap bankの思想からはもっと環境思想が読みとれたので、期待しすぎたのかもしれません。

■次は、PV-Net会員としてよかったこと

狭いブースの中で、「果たしてどれだけのお客さんに寄っていただけるのだろうか、若者たちは見向きもしな

いのでは……」と思っていましたが、不安をよそにたくさんのお客さんの来店をいただきました。「太陽光発電でドン」のような参加型のイベントは、若者たちにも好評で大変よかったです。スタッフ側にも、学生ボランティアの青木さんが応援に来てくれたり、同じブースの他団体にも学生ボランティアが参加されており、大変頼もしく感じました。来店者と同年代の彼等の存在も、お客さんの増加に大きく貢献したかと思っています。

あのように多量のエネルギーを使い、環境負荷の大きなイベントを行うときに、グリーン証書の手法で「少しは環境に配慮していますよ」というメッセージを発するのは、環境配慮行動の貴重な1歩だと思います。また、環境メッセージもイベントの場でしっかりアピールして欲しいと思いました。

今後はap bankへ提案した発電機へのBDF燃料の使用や、飲食容器のデポジット制などなど、次回は今回以上に環境配慮行動が増えることを期待したいと思います。

■最後に小池環境大臣へ

（もちろん彼女がこのレポートを見るわけはありませんが）大臣の車の運転手を務め、貴重な体験をしました。トークステージでの具体的な省エネのお話など、来客者の行動につながるお話ができたとは思いますが、とっても残念だったことがひとつ。それは、当初予定されていた出店ブース回りが中止になったことです。ここで環境大臣として見ていただきたかったことは、環境団体のブースを覗き、活動している人たちからの肉声を聞くべきだったと思うのです。個別具体的な事例を常に吸収すること、市民に励ましの言葉を掛けることが重要だと思うのです。それは選挙のときだけではないですよ。いかがでしょうか？

数日後、インターネットを見ていたら、『拓郎、かぐや姫 5万人 炎の12時間』というDVDの発売を知りました。すぐに注文したのは言うまでもありません。

「ドイツTOKYOしんじゅく環境展」に出展しました 【東京地域交流会会員・貴博名哲康】

今年度（2005年度）は「日本におけるドイツ年」です。この1年間、日本の各地でドイツに関連した700もの行事が多彩に展開される予定です。

今回、私たちPV-Netが出展した「ドイツTOKYOしんじゅく環境展」もそのひとつ。本環境展は、東京都や新宿区などの音頭で編成された環境展実行委員会と、ドイツ環境省、ドイツ連邦環境財団が主催して、「みんなで考えよう、地球の未来」のテーマの下、平成17年7月25日から30日までの6日間、新宿駅西口広場イベントコーナーをメイン会場として開かれました。

私たちPV-Netの出し物は、PV-Netや太陽光発電、PV-Greenなどを紹介するパネルのほか、去る5月、愛知万博（愛・地球博）に出展して大好評を得ました「みんな

でつくろう ソーラータウン」の一部と寄せ書き、そして「マイクロソーラーカー」（協力：(株)学習研究社）などでしたが、わかりやすかったからでしょうか、ソーラータウンとマイクロソーラーカーに人気が集まりました。



「ドイツTOKYOしんじゅく環境展」におけるPV-Netブース

何か社会貢献できないか

【千葉地域交流会会員・佐藤俊夫】

私は40代後半から始めた「市川市中央図書館友の会」でのボランティア活動体験を生かしたことを、退職後に何かできないかと考えました。家に出入りしております業者さんから地球温暖化対策に太陽光発電装置を紹介され、平成16年4月に京セラさんの太陽電池パネル装置を取り付けました。

今年の1月、「チャオコミュニティ・ペーパー」「自然エネルギーフォーラム2005 in 市川」に参加して太陽光発電所ネットワークさんを知りました。この組織には、我々自宅の太陽光発電装置の発電量が正常かどうかの判断基準を各会員にサポートするシステムがあることを知り、会員になることにしました。そして我が発電所に「天恵発電所」というニックネームを付けました。

6月に電子メールでボランティアを募集していまし

た。私も、仕事を退職したら何か社会貢献を、という夢を描いていましたから早速応募し、第3回総会案内書の送付、総会出席者の集合写真撮影をお手伝いさせていただきました。また、毎週水曜日はPVカルテ、発電データの書き込みなどを事務局のみなさんのアドバイスを受けながら作業を進めております。私が今までに人生で培ってきたことをPV-Netさんにボランティアで参加し、お手伝いできることに対して感謝しております。

最後に、会員の方にはお願いがあります。自宅のパソコンでPV-Netのホームページの発電マップを開き、各発電所の発電量をチェックしてみますと、発電データの書き込みを休止している方が目につきます。各発電所の発電データをPV-Netまで、郵送、FAXで送付してください。発電データを書き込みます。

「ストップおんだん館」にて話題提供しました

日時：8月6日（土）13時～16時
場所：ストップおんだん館（全国地球温暖化防止活動推進センター付属・東京都港区神谷町）

ちょうど暑い盛りに行われた温暖化対策を考える講座に、PV-Netも話題提供で参加しました。講座テーマは「発見！新しい暮らし方～住まいから考える地球温暖化対策」です。トップバッターとしてPV-Netの理事の高柳良大さんが、PVの仕組みや賄える電気の量、PV健康診断などのPV-Netの活動を紹介。設置検討者に役立つような内容のほか、世界のPV事例や普及の展望なども紹介し、参加者も熱心に耳を傾けていました。

続く地中熱利用促進協会の高杉さんのお話は住宅での地中熱利用について。地中深くの安定した温度の利用により、冷暖房のヒートポンプの効率向上などの効果があるそうです。明豊エンタープライズの伊藤さんからは外断熱工法について。夏涼しく冬暖かく、結露が少ないなどの特徴や国内外の事例紹介がありました。最後に、木造建築家の三澤さんが「木造住宅を見直そう」と、日本の風土に合った木造住宅で快適に暮らすさまざまな知恵を紹介されました。

休憩のあと、参加者は興味ある話題別に分かれて意見交換。PVに興味ある方がじっくりと意見交換や質問をし、満足した様子でした。太陽光発電ガイドブックを買った方も何人かいました。（事務局）

茨城地域

～いつものように自然体で
敷地(?)原子力発電を勉強～

茨城地域では毎年2回フォーラムを開いていますが、今年の春期フォーラムは5月28日、原子力で有名な東海村の日本原子力発電(株)の展示館をお借りして開催しました。原発は、PV-Netの自然エネルギー推進の主旨からいけば必ずしも同意できるものではありませんが、地球温暖化防止の観点では同じ立場にいますし、現に私たちが使用している電力の1/3を占めているので、一度徹底的に勉強しておくことも意義があるとの考え方でここを会場に選んだわけです。原子力ということで反対ということも懸念されましたが、結果は過去最高の出席者数(34名)で、会員以外にも数名の参加をいただきました。

展示館だけあって、原発については精密な模型をはじめ、実にわかりよい施設が整っており、日頃の疑問が一掃されました。展示館長に講演もお願いしましたが、PVにも造詣が深く、思いがけないほどのエールを受けました。

そのほかに研修会として会員自身による研究発表が3件もあり、自立性の高い、充実したフォーラムでした(研究テーマ「電気料金ソフトの紹介」「自然の恵みー手軽な雨水の利用法」「廃棄物とリサイクル」)。折りからのシャープのリコール情報も、タイミングよく会場で説明できました。

当地域ではほぼ2カ月に1度世話人会を開いていますが、自然体をモットーに気楽な会合にしています。2月の鯨鯨鍋に次いで、7月には会議の前に水戸の素敵なフランスレストランで食事をしました。食通の世話人のひとりが事前に情報を集めただけあって、「この値段でこんな本格的なフランス料理が!」と驚くほどの彩り、味と

もに素晴らしい料理でした。本来、NPO活動とはこのような気楽で楽しいものではないでしょうか。

(茨城地域交流会副代表 小西健司)



磯辺さんの発表の様子

栃木地域

～県や自治体との協働をさらに進めます～

今年は当会で初めての、飲み会を兼ねての世話人会を行いました。車社会の栃木では「ようやく実現できたな」というのが実感です。

7月30日、宇都宮の居酒屋に集合、世話人会の議題も早々に乾いた喉を潤しました。PV-Netの総会の話から、理事会、事務局、他県の状況など、普段聞けない話題に盛り上がってしまい、帰宅は午前様で二日酔いの有様でした。

活動のほうは、県や自治体との協働、連携をさらに進めるよう取り組んでおります。PVガイドブックが完成し、県から委託された調査事業も完結しました。全編カラーのガイドブックは見た目にも良く、内容もPV設置者、未設置者双方に参考になり、栃木地域交流会の誇れる成果だと思います。

また、内閣府国民生活局の「地方公共団体との連携を含む事業」の公募が栃木県地球温暖化防止活動センター経由で紹介され、納富さんの徹夜の資料づくりの結果、「とちぎ太陽光発電普及促進センター」として応募することができました。事業規模400万円近いもので、是非採用されるよう願っております。

7月16、17日には15団体が集うソーラーカー研究会の10周年記念事業があり、PV-Netはグリーン電力証書の紹介やガイドブックの販売で参加しました。ソーラーカー

が時速70kmも出ることに驚かされました。8月6日は「クリーンエネルギーフェスタ2005」をエスペック(株)と共同で行いました。県からも、新たに始まったPV設置に対する融資制度の説明に参加してくれました。また、相談室には新築予定の方が見えて世話人との活発な意見交換をするなど、一般の人のPVへの関心の高さと知識にPV普及の手応えを感じました。エスペックでは燃料電池の実験設備を公開していました。秋には小山市と協力して県南フォーラムを開催する予定です。

(栃木地域交流会世話人 石渡饒一)



初めての飲み会を兼ねた世話人会は深夜まで盛況

群馬地域

～MSK太陽光パネル工場見学会に向けて～

8月7日(土)にPV-Green説明会兼発電所長懇談会を開催しました。新聞に掲載されたこともあり、会員をはじめ県の企業局の方や一般設置者の方が多く参加してくださいました。次の企画としてはパネル工場見学会を計画中です。

過去2回開催した見学会は、企画を通して会員同士の交流を図ってきました。1回目は群馬県内のPV設置施設・個人宅を見つ、温泉旅館で懇親会を行い、2回目にはソーラータウンで有名な太田市「城西の杜」の見学兼太田市長講演会を行ったあと、参加者同士で交流を深めました。

今回は長野県にあるMSKの太陽光パネル工場の見学会に合わせて同県内のPV設置者との交流も計画中です。見学会のスタートは、上毛三山のひとつ、妙義山の奇岩奇石を眺めながら長野県佐久市にあるMSKのパネル工場ではモジュール

製造工程を見学します。当日は小諸市内のPV設置者との交流会も検討中。小諸市内の温泉旅館で1泊した翌日は、同市内の自然エネルギー施設やその取り組みに触れるほか、マンズワイナリーでの工場見学など、お楽しみ企画も盛り込んでいます。詳細は会報に同封しているチラシをご覧ください。

群馬世話人会は月1回行っておりますが、みな色々用事があって集まりが良いとは言えず、事務局の伊藤さんの応援なしでは難しい状況ですが、少ない人数でも頑張っていくので、今後ともよろしく願いいたします。

(群馬地域交流会世話人 多胡 勇)

千葉地域

～「エコメッセちば」に出展します～

9月18日に幕張メッセで行われる環境活動見本市「エコメッセちば2005」に初めて出展します。去年はパネルメーカ2社が出展していましたが、ユーザ側の出展はありませんでした。ユーザの立場からPVをアピールするとともに「太陽光発電所ネットワーク」という名前も知ってもらおうと展示物の準備を進めているところです。

まずはソーラーハウスの模型を展示します。このイベントは子ども連れも多いので、子どもにもPVシステムの仕組みがわかるように説明します。また、県内のPV設置状況や会の活動を紹介する新聞記事コピー、PV家庭の事例などを張り出します。一般の方はどれくらいPVで賄えるのかに興味があるのではないかと思いますので、何%賄えたかがわかるような資料を準備します。さらにノートPCでPVに関するQ&Aを見てもらおうと、電子データを作成中です。今後発展が期待できるPV-Green電力証書事業の紹介もできたら行います。ブース前にどれくらいの人が立ち止まってくれるのか、PVに関する話を聞いてくれるのか不安もあり

ますが、ひとりでも多くの方と話ができればと思います。

このほか、地域交流会としては年内にバス見学会を予定しています。富津市のTEPCO新エネルギーパーク、富津火力発電所、袖ヶ浦臨海公園風力発電所、ハイテクノロジー幕張(シャープ)を全部見ようという計画です。多くの地域会員の方に是非参加していただきたいと思ひます。

(千葉地域交流会代表 宮下朝光)

埼玉地域

～PV環境価値の地産地消を目指して～

05年度の活動方針は、①行政その他地域関連団体とのコラボレーション推進、②PV-Green事業の展開、③地域交流活動の充実の3項目です。

①地域団体との協同活動:川越市との共催行事「PV設置希望者に対する相談会」を9月17日に開催し、市とPV-Net双方の効果として普及促進と会員拡大に期待しています。この共催方式は今年3月に開催した「設置済み者に対する相談会」に次ぐ第2弾です。また、自治体主催の環境フェアなどへ積極的に参加し、PV-Netの展示コーナーを設けて会員拡大を図っています。すでに6月5日の蓮田市環境フェアに参加、今後は10月8日の東松山市環境フェスティバル、10月22、23日の「川越産業博覧会」の環境フェアへ出展を予定しています。

②PV-Green事業の展開:6~7月にかけて県内を4ブロックに分け、会員向け募集説明会を行いました。熊谷市、さいたま市、川越市、春日部市の4会場に合計60名が参加、37名の方がPV-Greenに参加され、以前からの参加者と合わせて合計60名となりました。次回11月の募集に向けて、前回参加できなかった会員向けに募集説明会を行うことを検討中です。

県内会員の証書化が増えるに伴

い、会員の中から「証書の買い手も県内で開拓すべき」との声が上がり、「環境価値の地産・地消(地域で産出したものを地域で消費)」を目指して県内公共団体や地域密着型の企業などに対する買い手募集アプローチを検討中です。

③地域交流活動の充実:PV-Green説明会を通じて多くの会員の人柄やPVに関する思い入れなどを理解し合えた面があり、これを生かした行事内容を来年3月に予定している地域フォーラムに取り入れることを検討中です。

(埼玉地域交流会副代表 宮田卓英)

東京地域

～今年度の取り組み～

昨年度に続き、より小さい地域活動である近隣グループの立ち上げに尽力したいと考えています。日野、武蔵野、国分寺の各地域は定例化できつつありますが、その他の地域についても随時立ち上げていく予定です。「是非、私の地域で開催を」などの要望がありましたら事務局までご連絡ください。

今年は自治体との連携も積極的に行っていきます。環境イベントなどの情報をお知らせください。目下、10月の小平市の市民まつり、来年GWの羽村市のイベントに参加予定です。より会員サービスが充実できるよう、東京地域事務局の開設準備も始め色々なメニューも考えていきます。準備ができ次第、別途お知らせいたします。

(東京地域交流会代表 高柳良大)

<武蔵野・三鷹・小金井・

調布地区近隣グループ>

7月31日、第2回会合を開催。今回から調布市の所長さんも参加しました。夏休みに入ったばかりの休日とあって参加7名と少人数でしたが、DIYでパネル方位を変更したレポートと効果の評価、自宅の電気料金の分析など多数の資料が提供され、中身の濃い会話が交

地域の動き

わされました。グループのニックネームとして前回提案されていた「PV むさし」がそのまま採択されました。今回は小さなお嬢さんもお母さんと一緒に参加されてとても会が和やかになりました。

(東京地域交流会世話人 河田鐵雄)

<日野近隣グループ>

昨年10月の第1回会合を皮切りに、この1年間、5回の会合を開催しました。メンバー各発電所が比較的固まって設置されていることもあり、集まりやすい環境にはありますが、毎回高い出席率を誇っています。メンバーが1カ所に集まって開く座談会だけではなく、市内の他団体が主催する太陽光発電所見学会などにも参加しましたが、今後は当グループ独自のパソコン教室の開催など、さらに幅広い活動を続けて行くことが、メンバーのみならず、関係各位からも期待されているところです。

(東京地域交流会副代表 馬場秀樹)

● 神奈川地域 ●

～秋のPV-Net神奈川は大忙し～

秋の訪れとともに、当会の活動も本格化します。まず、10月1日(土)開催のPV-Netフォーラム神奈川では、PV-Green証書化事業のPRや参加受付はもちろん、地域相談窓口の設立宣言を盛大に行います。未会員や新規PV設置者も対象とし、技術的な相談や不良対策など、よろず相談受付を前提として対処する計画です。これまでに蓄積されてきたPV-Netのさまざまな情報やスキルが大いに役立ち、会員拡大に大いに寄与するものと期待しています。

10月15、16日(土、日)には「エコタウンかながわ2005(辻堂海浜公園)」への出展、10月15日には「保土ヶ谷区民まつり」にも参加を予定しています。当初、22日(土)の予定だった保土ヶ谷区民まつりは、

衆議員選挙の影響で前倒しとなり、世話人の力の分散を余儀なくされてしまいましたが、ここぞというときの結集力の強さと多くの地域会員のみなさまの強力なサポートによって乗り切ることができると確信しています。

展示は、愛知万博で活躍した「太陽光発電でドン」「ミニ・ソーラーカーレース」「ソーラータウン」の再現を中心に、相談窓口やPV-Green証書売買受付コーナーなどを設ける予定です。出展者にとって、身内の方々が駆けつけてくださることが一番の応援となります。共催イベントや他団体によるさまざまな楽しい企画もたくさん予定されていますので、お誘い合せてお出かけください。

9つの近隣グループ活動もそれぞれの個性を生かして活発に行われています。9、10月にはほとんどのグループで定例会が開催され、情報交換や調査報告、勉強会や自治体との意見交換会など、豊富な内容で地域活動を活性化させていきます。まだ参加されていないみなさん、ちょっと覗いてみませんか。きっと新たな情報やお知り合いを得ることができると思います。

(神奈川地域交流会代表 野村安子)

● 山梨地域 ●

～PV-Greenを市民発電所づくりに活用～

当会ではPV-Greenに未参加の会員発電所長36名に個別に参加の意思確認を行いました。また7月24日にPV-Green申し込み説明会を開催した結果、8月22日の第2回設備認定には19名20発電所が参加し、山梨ファームが誕生しました。PV-Greenに関しては、環境価値をほかへ売りたくない人、参加するが全額基金への寄付を希望する方など、考え方は人それぞれです。今後は山梨県内の企業などを対象に証書の買い手を見つける営業活動を開始する予定です。

次の段階として計画しているのがPV-Greenの市民発電所づくりへの活用です。県内のNPO法人「みどりの学校」が計画している市民太陽光発電所のコンサルタント事業を受託しました。甲府市内の公民館に自治会からの寄付で設置される計画です。ただし甲府市から受け取れる電力料金が11～14円/kWh(高圧受電のため)と安いので、設置費用の回収に時間が掛かってしまいます。そのためにPV-Greenを新たな市民発電所の収入源として活用します。幸い、発電した電力全量が自家消費なので有利です。また市民発電所からのグリーン証書を販売するイベントの開催も計画しています。

次に山梨で計画している事業が小水力発電所の立ち上げです。山梨は周囲を山に囲まれ、豊富な水源と急峻な地形に恵まれています。小水力発電の適地も多く、今後の普及が期待されています。資金集めから計画の実施まで困難が予想されますが、地道に取り組んで行く予定です。そのほか、会員増を目指すための設置事業者との交流などを模索しながら進めています。

(山梨地域交流会代表 大友 哲)



会 PV Green申し込み説明

● 静岡地域 ●

～自治体とのコラボレーションによる会員拡大～

私は昨年5月、県内唯一の中部電力管内の会員として参加しました。なかなか県西部地域の会員が増えないため、自分個人の活動だけでなく、仕事の部分も取り込んでPRすることといたしました。

というのは、私は掛川市役所環境保全課の課長補佐という立場で、地球温暖化防止や新エネルギーの

普及も所管しており、住宅用PVシステムへの補助制度も実施しています。環境保全課では、補助金受領後に市が行う環境研修会や家庭版EMS事業へ参加することなどを補助金交付の条件としていますので、研修会の都度、封書で開催案内を送付しております。これにPV-Netの案内を同封してもらえないか上司にも相談したところ、快諾を得られましたので、リーフレットを同封しましたが、なかなか会員拡大にはつながりません。やはり、会って話して初めて共感を得られるということでしょうか。

次に、市の環境イベント(2月)へのPV-Net出展と合わせPRを計画。このときにはPV健康診断のサービスを追加。PV-Netのリーフレットに健康診断の書式を同封し、市役所で宛名シートを貼ってもらい郵送。健康診断の書式に記入した方は、静岡地域山下代表に送るか私のところに持参していただくようにしました。診断結果は環境イベントのPV-Netブースでお渡しし、同時に入会案内をするというもの。結果は、健康診断を提出し、かつ環境イベントに参加された7人が全員、面談即入会。健康診断サービスが効いたのでしょう。

5月には、グリーン電力証書の説明会と入会の案内を郵送。手はずは前回同様。事務局から手塚さん、桃井さんが応援に来てくださいましたが結果はそれほどではありませんでした。正直、会場で待っているだけではなかなか来ていただけません。入会して下さる方々は環境に対する意識の高い方なので、環境イベントなどに出展し、来場者と話をするのは有効だと思います。また、その町がPVの補助金を交付していれば、私が行った手法により加入率を上げることもできるかと思っています。

7月には、三島と富士で市役所の協力を得ながら補助金受領者に案内を送り、説明会を開きました。

三島で12名、富士で13名が新規加入、同時に全員がPV-Greenへも参加してくださいました。

世話人のみなさん、みなさんも町の環境担当と話をしてみたいかがでしょうか。静岡の事例を話していただければ協力も得られるかもしれません。ちなみに、私も今年度は補助金交付の説明会に出席し、PV-NetとPV-Greenの説明も行っています。頑張って参加者を増やし、静岡地域の目標200名を達成したいと思っています。

(静岡地域交流会副代表 廣畑雅己)

● 宮崎地域 ●

～ひむかおひさま共和国～

自然エネルギーのPV、風力発電について語り合う場として、平成15年10月4日、「ひむかおひさま共和国」を設立、約70人で始動しました。役員は以下5名です。

大統領：清水洋香

副大統領：栗原 稔(県庁OB)

小川泰美(県庁OB)

下津義博(環境科学協会)

事務局長：楠見 博(県庁職員)

会費は無料なので、活動すればするほど役員の負担が大変です。月に2、3回、役員会議を開き、行事の計画を練ります。事務局長は県庁職員なので、勤務外の時間はおひさま共和国にとられ、年休もほとんどなくなり、家庭サービスにも大変迷惑をかけております。

会では年2回の勉強会と設立イベントを開催。1周年目は宮崎大学工学部ホールで大塚、大坪両教授による新エネルギーの講演で盛り上がりました。都城市、西都市に支部ができ、現在会員は200名になりました。

本年はまず、京都議定書発効を記念して、宮大ホールで河内教授の記念講演を開催。教授の自然エネルギーに対する熱い思いや実践などを交えての楽しい会議でした。続いてPV-Net都筑事務局長から、

PVによる自家消費分の環境価値に関する説明を受けました。河内教授、都筑氏を交えた懇親会は深夜まで新エネ談義で賑わいました。

5月は初旬から役員で分担し、PV-Netの会員募りに駆けずり回り、大忙しでした。前期後期で40人の方々が入会されました。

役員が中心になっての新エネ出前教室も定着。6月4日は、武者小路実篤『新しき村』のある西都市石河内の石河内小学校で開催し、宮大の河内教授にも飛び入り参加していただき、地域住民も巻き込んだの素晴らしい「出前教室」を実施することができました。

8月25日「宮崎地域交流会」設立集会には都筑事務局長、自然エネルギー先進国のドイツから、PVに長年取り組んでこられたマーチン・フントハウゼン教授(エアランゲン大)も参加され、ドイツと日本、宮崎のPV比較やドイツの制度などについて学びました。27日には、「環境立県」をモットーとされる安藤忠恕知事とマーチン教授の面談も実現。「太陽とみどりの国」宮崎を、自然エネルギー先進県として全国にアピールできるよう要望しました。午後は教授による「ドイツのソーラーシステム」の講演、楠見博事務局長による「宮崎のソーラーエネルギーの現状について」の発表。聴衆の反響も大きく、この2年の活動でおひさま共和国が確実に成長・発展していることを実感した1日でした。

地球温暖化防止、二酸化炭素削減のため、環境立県を目指している宮崎県とも連携を保ちながら「太陽光発電王国宮崎」を全国にアピールしてゆきたいと思っています。

(宮崎地域交流会代表 清水洋香)



設立集会後の懇親会で

2005年度第1回理事会

- 日時：7月9日(土) 14時～17時30分
- 場所：水道橋 こんぴら会館
- 参加者：理事15名(ウェブ参加1名、代理1名含む)、監事1名、事務局4名

PV-Greenの進捗状況や山梨地域交流会で行われた設置事業者のヒアリングについて報告がありました。2005年度の運営体制や年間予定の確認、理事会、三役会議の位置づけを議論し、会員拡大というテーマの中で各地域の活動報告や情報・意見交換を行いました。

第2回理事会

- 日時：8月27日(土) 14時～17時30分
- 場所：明治大学研究棟第9会議室
- 参加者：理事18名、監事2名、評議員2名、事務局3名

理事会規程の改訂、宮崎地域交流会の設立、地域予算について議論しました。また、年間活動予定、NPO法人設立に向けた体制、環境省委託事業についての確認、ならびに四半期会計、PV-Greenの進捗状況、万博出展後の効果、事務局の体制変更の報告がありました。

新理事のみなさんに自己紹介と抱負を語ってもらいました。

◆◆2005年度新理事紹介◆◆
＝代表理事＝

○日江井榮二郎(東京都府中市)
三鷹の国立天文台で37年間太陽物理学の研究に従事してきました。東京大学で天文学の講義を行う傍ら、乗鞍山頂にあるコロナ観測所に出張することもしばしばありました。停年退職後、明星大学に移り、学長をして定年を迎えました。コロナ観測所は日の出を見るのに適しており、多くの登山者が輝く紅雲に囲まれた太陽を拝し、手を合わせて拍手(かしわで)を打

ちます。その真摯な姿はまさに、日本人が心底から太陽を崇め、その恵みに感謝している国民であることを表現していました。若い頃は太陽を単なる研究の対象としていましたが、調べれば調べるほど母なる太陽、生命の根源のようだと思ふようになりました。
<抱負>主義主張、信条のさまざまな人々が、その差異にこだわらず、市民として自然エネルギー、特にPVを実施することを通して「物を大切にし、太陽を崇拝し、自然の恵みに感謝する」気持ちをより多くの人々と共有したいと思ひます。消費社会の魅力(魔力)に引きずられる現状がある一方、グリーン電力を大切に考える人や企業が増えつつあります。私どもの活動が、地球環境を良好に保ち、50年先、100年先の市民にすばらしいインパクトを与えるよう願ひします。

＝理事＝

○國井範彰(埼玉県大里郡大里町)
今年度から新組織となった相談室を担当します。私のPV設置の動機はPVの機能、メカニズムへの興味为主で、自然エネルギーの普及や地球温暖化防止などへの強い認識は持っていません。現在でも設置者数(会員)の増加や発電状況、トラブル情報に最も関心があり、CO₂排出削減などは私にとって手段でしかありません。こんなのが理事になっていいのか、自問してみましたが、まあなんとか自分流でやれるだけやってみようということにしました。設置者の最も身近な立場の相談室活動をしていこうと考えています。
○鈴木 昇(栃木県宇都宮市)
今年度から理事を務めさせていただくことになりました。PV-Netは多くの方の期待を背負っていますし、会員がボランティア的に社会参加をする場であると考えます。そのような会には当然多様な考え

方が入り混じりますが、許容と協同、情報の共有を念頭において、微力ながらも発展に貢献できればと考えています。よろしく願ひします。

○多胡 勇(群馬県安中市)
PVは平成10年に京セラ4.35kW(30枚)を設置しました。週2回、岡本工作機械製作所に勤め、あとは40アールある畑の手入れをしています。最近畑がイノシシに荒らされるので、対策に日々追われています。
PV以外には、薪を燃やしてお風呂や洗い場などのお湯を賄っています。朝起きて一番で薪を燃やし、また夕方薪を燃やすというパターンです。家の周りは山あり川ありなので水力発電もしてみたいと思ったり、新幹線工事時の基礎コンクリートに風力発電を取り付けたいと思ったりもするのですが、今は畑の草取りに追われる毎日です。

現在群馬県内の会員は47名です。設置件数は4000件ほどあるので今後もっと会員を増やしていきます。
○前川淳治(茨城県鹿島郡神栖町)
生存の基本的条件であるエネルギーと環境に関心を持っています。両者は個人の身近な関心事であり、国の目標にかかわる重要な問題です。PVが究極的解決の象徴的存在であることを願っています。
茨城地域交流会の課題は、より活発な活動のために意欲ある世話人を増やし、未会員へは広報活動や勧誘、一般市民にはPVへの関心、理解を高めるためのPR活動をしていくことです。各種グループ、組織とも連携しながら幅広く進めていきたいと考えています。
○大友 哲(山梨県北杜市)
日照条件の良さを利用して大規模に太陽光発電を行っています。本業は歯科医ですが、それ以上にPV-Netの仕事も重要だと思っています。山梨の代表であり理事のひとりとして責任の重さを痛感していますが、自分流の粘り強さで、

この会の目的である、自然エネルギーの発展と普及に取り組んでいきたいと思ひます。

普及広報部

今年度は委員会を減らし、より効率良く活動していくことが話し合われた結果、渉外委員会と普及広報委員会が統合されました。昨年度まで普及広報委員会の委員長は小林さんが担っていましたが、今年度より私、高柳が務めさせていただきます。普及広報と責任が大きく、不安もありますが、微力ながら尽力しますので、当会の普及、そしてPVの普及のため、会員みなさまの協力をお願いします。

今年度の普及広報部の目標は、①会報の発行(スミマセン、すでに遅れてしまいました)、②以前よりご要望の多いホームページ(以下HP)のリニューアル、③12月のエコプロダクツ、④来年10月に幕張で開催される「再生可能エネルギー2006国際会議」などへの展示参加のプロジェクト立ち上げがあります。その他細かい継続事業もありますが、これらの4つを柱として今年度の普及広報部を運営していきたいと考えています。

HPリニューアルに関しては、まずメンテナンス業者を変更しました。この会報が出る頃には移管作業が終了していると思います。その後はHPグループを募集し、みなさまのご意見を取り入れながらより使いやすいHPにしていきます。

12月のエコプロダクツに関しても、プロジェクトメンバー募集がこの会報に同封されていると思いますので是非ご覧になってください。会員のみなさま各人が、できる範囲でご協力くださることによってこの会の認知度は格段に向上すると思ひますのでなにとぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(普及広報部座長 高柳良大)

財政部

2004年度までの総務財政委員会の重要な使命であった規約改正も、法人化へ向かって定款作成となり、総会を経て承認されました。ここまで委員会、WGの活動の功績は大きいものでした。2005年度はスリム化を受けて専門部会活動となり、総務財政委員会は財政部となります。課題は以下の通りです。

1) NPO法人としての財務管理

- ①2005年度予算執行管理(四半期決算、補正予算案、期末決算)
- ②具体的な財源獲得の対策(実施体制、マニュアル、スケジュールなどの検討)を各組織と連携実施
- ③会全体のバランスを考えた2006年度の予算案や中長期財政案の作成と提案

2) 地域事務局の体制づくり

- ①助成金や委託事業の受託、財源獲得の体制(マニュアルなど)整備を地域活動と連携して実施
- ②地域事務局の効率的な財務管理の整備

法人としての財務管理は厳しく行われなければなりません。地域の担当のみなさまに加えて専門の方にも参加を願う必要があります。予算の執行に関しては整然と行われてゆかねばなりませんので、担当のみなさまにはよろしくお願いする次第です。

今年度の実績をもって会の中長期の健全な財政基盤を築きあげます。具体的には、特に今年度はふたつのマニュアルづくりが要求されています。ひとつは寄付の減額に苦しむことなく早い自立が要求される当会の財源獲得や経費の使い方に関するもの。もうひとつはこれまで2年間の活動を成文化し、効率的な財務管理の整備に向けて地域での会計管理上の課題を抽出し、異なる事情を共有した上

で各地域の事務局運用ルールの仕組みを確立させます。これは今後立ち上がる9地域外の地域交流会のためのマニュアルにもなります。基本的な事務手続きの上に、各地域で昨年度までに実際に会計を担当されていた旧委員の意見を生かしてつくってまいります。みなさまのご協力をお願いいたします。

(財政部座長 関沢ひろみ)

相談室

2005年度総会の決定を経て、PV-Net全体が新しい組織となりなした。相談室も別稿(P5参照)に示すような組織で活動していきますが、まだ実際に組織としての活動は開始していません。9月早々には全体会合を開催し、方向性を確認した上で活動を開始します。

しかし、日常的な相談室としての対外窓口は常に開かれており、静岡会員の改修工事立ち会い、非会員からの保証の問い合わせなど色々な内容の質問や問い合わせが届いております。解決ができ、公開の了解のとれたものから順次、誌面を通じて紹介していきます。

PVという限られた領域ですが、設置者の立場で、かつ中立的な相談活動というPV-Net相談室の存在意義に見合うような活動を心がけて進めていきます。

【山梨地域相談員交代のお知らせ】

山梨の地域相談員として活躍された深沢修さんから勤務の都合で活動が難しくなったとの申し出を受け、山梨地域交流会世話人会の推薦、理事会の承認を経て渡辺正己さんが新たに任命されました。今後の活躍をご期待ください。

(相談室座長 國井範彰)

PV-Green事業部

※PV-Green特集(P8-11)を参照ください。

会員更新のお願い

8～10月に入会したみなさま、会員更新の季節です！ 太陽光発電所ネットワークの活動は3年目に入り、NPO法人化とさらなる活動の充実のためにも、みなさんの会費が大きな助けになります。

多くの方が指定口座への振込み、自動振替・払込の手続きを行っています。まだ会員更新されていない方は、下記指定口座へ年会費3,000円をお振込みください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○郵便振替：00190-7-758332

名義：太陽光発電所ネットワーク

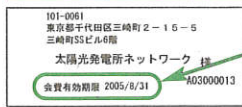
○銀行振込：東京三菱銀行 神保町支店 普通：2201524

名義：太陽光発電所ネットワーク 事務局長 都筑建

PV-Netではご入会の時期により会員の更新時期を4期に分けています。会費の有効期限は、PV-Netからみなさまへ発送する封筒の宛名シールに記載してありますので、ご確認ください。会員資格の更新時期と会費有効期限は、右の表をご覧ください。

●会費区分、期限と自動振替・払込の申込締切について

| 区分 | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 |
|--------|----------|-----------|-----------|---------------------|
| 入会期 | 5/1～7/31 | 8/1～10/31 | 11/1～1/31 | 2/1～4/30 |
| 会費納入期限 | 5/31 | 8/31 | 11/30 | 2/28 (うるう年は2/29) |
| 申込締切 | 4/20 | 7/20 | 10/20 | 1/20 |



会費の有効期限は宛名シールでご確認いただけます

ご寄付ありがとうございます

神奈川県横浜市の見方平さん、東京都町田市の有馬美恵子さん、栃木県下都賀郡壬生町の倉島省三さん、東京都国分寺市の番場祥充さん、PV-Net英語教室参加者のみなさんからご寄付をいただきました。さらなる活動充実に向けて活用させていただきます。どうもありがとうございます。

お知り合いに会の活動を紹介してください

この春完成のリーフレットは、会の活動や会員特典がわかりやすく載っています。PVのグリーン電力証書化の活動「PV-Green」も紹介していますので、この設置者のお財布と環境に優しい活動についても、お知り合いに是非ご紹介ください。リーフレットの送付を希望される方は、事務局までご連絡ください。お待ちしております。

ペンギンのはばたき

◆大震災は確実と言われる。“そのとき” PV-Netはどうなるのか？ 真剣に、早急に対策が求められる。そのときになってからでは遅い。(つ)
◆讃岐うどんを食べそこなった夏休みも今は昔、CO2 排出係数にとらめっこ中。PV-Greenを通して音楽、写真展、アパレルメーカ……「エコ」を接点に思いもよらない出会いと世界がまだまだ広がります。(て)

◆生まれて初めてビールを醸造。順調に1次発酵を終え、瓶詰めして2次発酵へ。ゆっくり寝かせて一月後にどんな味になっているのか、楽しみです。(い)
◆長野の田舎の甥は5歳と3歳。とっても元気。今のうちに自然をたっぷり体験しろよ。将来、この自然や気候がどうなるのかな？(も)

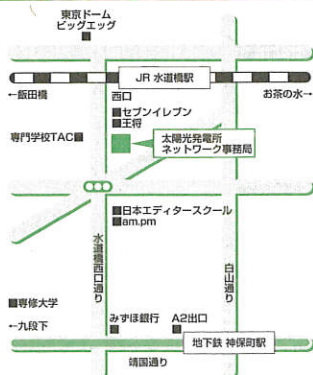
Editor's Notes

太陽光発電所ネットワーク (略称: PV-Net)

〒101-0061 千代田区三崎町2-15-5 三崎町SSビル6階

〈交通のご案内〉

- ①JR水道橋駅西口から徒歩2分
 - ②東京メトロ・都営地下鉄 神保町駅A2出口から徒歩10分
- TEL 03-3221-3370
FAX 03-3221-3380
URL : www.greenenergy.jp
E-mail : info@greenenergy.jp



<2005年5月>

- 7日 埼玉地域交流会世話人会
- 8日 技術・対応委員会 合同委員会 (事業化、技術対応、調査)
- 9日 静岡地域交流会世話人会
- 11日 栃木地域交流会世話人会 総務財政委員会
- 12日 調査委員会WG3 (渉外委員会WG3) 神奈川地域交流会世話人会
- 13日 普及広報委員会
- 14日 栃木地域交流会世話人会 千葉地域交流会世話人会
- 16日 PV流通構造調査WG (調査委)
- 17日 神奈川地域交流会金沢近隣グループ
- 18日 神奈川地域交流会湘南近隣グループ
- 19日 三役会議 PV-Greenプロジェクト会議
- 21日 拡大委員長会議 理事会
- 22日 PV健康診断教室 (千葉地域交流会) 神奈川地域交流会県央近隣グループ
- 28日 第5回PV-Netフォーラム茨城 (茨城地域交流会) 見学会・フォーラム 栃木地域交流会県北世話人会
- 30日 静岡地域交流会世話人会

<6月>

- 4日 相談員研修会 栃木北ミニフォーラム「那須野が原に太陽を…」(栃木地域交流会)
- 5日 蓮田市環境フェア出演(埼玉地域交流会)
- 7日 2005年国際博覧会記念 風力・再生型自然エネルギー・燃料電池国際会議 & 見本展示 (静岡地域交流会、～9日)
- 8日 PV流通構造調査 (調査委員会) 東京地域交流会世話人会
- 9日 神奈川地域交流会世話人会
- 10日 PV-Greenプロジェクト会議
- 11日 栃木地域交流会世話人会 東京地域交流会日野近隣グループ 千葉地域交流会世話人会
- 6月環境月間キャンペーン参加 (神奈川地域交流会、～12日)
- 14日 愛知万博プロジェクト 臨時理事会
- 18日 グリーン電力証書PV-Green参加説明会 (埼玉地域交流会)
- 19日 神奈川地域交流会金沢近隣グループ
- 21日 2005年度総会
- 25日 グリーン電力証書PV-Green参加説明会 (埼玉地域交流会)
- 26日 山梨地域交流会世話人会 (設置業者からのヒアリング)

<7月>

- 2日 埼玉地域交流会世話人会
- 3日 グリーン電力証書PV-Green参加説明会 (埼玉地域交流会)
- 4日 三役会議
- 7日 静岡地域交流会世話人会
- 9日 2005年度第1回理事会 千葉地域交流会世話人会
- 10日 グリーン電力証書PV-Green参加説明会 (埼玉地域交流会)
- 13日 神奈川地域交流会川崎・横浜北部近隣グループ
- 14日 PV-Green事業部会
- 15日 神奈川地域交流会世話人会 東京地域交流会世話人会
- 16日 ap bank ies '05出展 (～18日)
- 17日 第3回PV健康診断教室 (千葉地域交流会)
- 19日 愛知万博「光と水のエネルギー広場」実行委員会 (活動取りまとめ) 神奈川地域交流会金沢近隣グループ 神奈川地域交流会湘南近隣グループ
- 20日 グリーン電力証書化PV-GreenとPV健康診断・説明会 (宮崎)
- 22日 茨城地域交流会世話人会
- 23日 坂本龍一 JAPAN TOUR 2005 (ZEPP TOKYO) へ出展 (～25日)
- 24日 グリーン電力証書PV-Green参加説明会 (山梨地域交流会) グリーン電力証書PV-Green参加説明会 (静岡地域交流会) 神奈川地域交流会県央近隣グループ
- 25日 ドイツ東京しんじゅく環境展へ出展 (～30日)
- 26日 三役会議
- 27日 グリーン電力証書PV-Green参加説明会 (宮崎)
- 29日 パネル工場見学と太陽光発電所見学の旅 (in山梨・長野、～30日) 神奈川地域交流会学際近隣グループ
- 30日 神奈川地域交流会相模原近隣グループ
- 31日 グリーン電力証書PV-Green参加説明会 (静岡地域交流会)

<8月>

- 1日 坂本龍一 JAPAN TOUR 2005 へ出展
- 3日 坂本龍一 JAPAN TOUR 2005 へ出展
- 6日 夏だ！グリーンエネルギーフェスタ2005 (栃木地域交流会) ストップおんだん館夏講座「地球にやさしい暮らし方～住まいから考える地球温暖化対策」話題提供で参加
- 7日 グリーン電力証書PV-Green参加説明会兼発電所長懇親会 (群馬地域交流会)
- 8日 PV-Green事業部会
- 10日 山梨地域交流会世話人会
- 11日 神奈川地域交流会世話人会
- 16日 神奈川地域交流会金沢近隣グループ
- 20日 千葉地域交流会世話人会
- 24日 三役会議
- 25日 宮崎地域交流会の設立会
- 27日 第2回理事会
- 28日 群馬地域交流会世話人会

